各ブロック研修会など

平成 28 年度

第 26 回　日本赤十字社診療放射線技師会　北海道ブロック研修会報告

釧路赤十字病院　　工藤　武志

第 26 回北海道地区会総会並びに研修会が平成 28 年 10 月 1 日（土）～2 日（日）の日程で、日本赤十字社北海道支部奉仕団活動室で開催されました。台風 10 号の被害から 1 カ月以上たち、まだ鉄道や国道が復旧されず被害が癒えていない地域から研修会に参加され総勢 25 名（9 施設）の参加がありました。

1 日目の研修会の内容は「会員研究発表　6 題」・「日本赤十字社診療放射線技師会　総会報告」特別講演として日本赤十字社診療放射線技師会　清水会長（深谷赤十字病院）をお招きし「日本赤十字社診療放射線技師会の活動を未来に繋ぐ」と題して技師会の活動内容や雑談を交えながら講演をして頂きました。また、総会後に情報交換会を行い膝を交えて研修会等で聞けなかった事や趣味等の話をし、和気あいあいと楽しい時を過ごしました。

2 日目は各施設から「被ばく低減に関する各施設の取り組みの状況報告」の発表がありました。また特別講演として「医療被ばく低減施設の認定取得について」と題して旭川赤十字病院　医療技術部　放射線科　副技師長　東堂　剛三さんに講演をして頂き、2 日間の研修会が無事に終わりました。

清水会長にはお忙しい中、北海道まで来て講演をして頂きありがとうございました。

旭川赤十字病院

日本赤十字社診療放射線技師会　北海道地区会

第 26 回総会並びに研修会　日程表

開催日時　：　平成 28 年 10 月 1 日（土）12：30～平成 28 年 10 月 2 日（日）12：00

開催場所　：　日本赤十字社　北海道支部奉仕団活動室

第 1 日目　平成 28 年 10 月 1 日（土曜日）

12：30～13：00　　受付・参加登録

13：00～14：30　　会員研究発表

【座長】釧路赤十字病院　熊谷　敬広

1. Virtual Grid 撮影距離修正は必要か?　簡易視覚評価で検討してみた

伊達赤十字病院　○中村　貴彦、山内　修司、吉永　圭佑

2. グースマン撮影法の変更による経験

釧路赤十字病院　　太田　慎二

3. マンモグラフィ装置の撮影条件と平均乳腺線量（AGD）の検討

旭川赤十字病院　○千葉　早也加、福屋 香菜子

瀬川　千晴、増田　安彦

4. リニアックの吸収線量測定に必要な補正係数測定法について

北見赤十字病院　○秋田　尚久、干川　隆幸、福島　理夫

5. 当院における PACS 障害対策マニュアルの作成と運用

北見赤十字病院　○垂水　昌子、中島　勲

6. 災害救護訓練と災害救護

浦河赤十字病院　○本間　暁大、石川　辰美、木村　真

藤村　仁、天戸　康博、三浦　康成

14：40～15：40　特別講演

【座長】浦河赤十字病院　三浦　康成

「日本赤十字社診療放射線技師会の活動を未来に繋ぐ」

日本赤十字社診療放射線技師会　会長

深谷赤十字病院　清水　文孝

15：50～16：20　全国総会報告

【座長】北見赤十字病院　中島　勲

16：50～17：50　北海道地区会　総会

浦河赤十字病院　天戸　康博

18：30～　　情報交換会

清水会長

旭川赤十字病院　東堂副技師長

第２日目　平成 28 年 10 月 2 日（日曜日）

9：10～9：30　　受付

9：30～11：00

「被ばく低減に関する各施設の取り組みの状況報告」各施設発表

【座長】釧路赤十字病院　多津美　敦

11：10～11：40

特別講演

【座長】釧路赤十字病院　工藤　武志

「医療被ばく低減施設の認定取得について」

旭川赤十字病院　東堂　剛三

～12：00　閉会

第5回　日本赤十字社診療放射線技師会　東北ブロック研修会開催報告

石巻赤十字病院　及川 順一

平成28年9月24日（土）13時30分より、石巻赤十字病院会議室において平成28年度第5回日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック研修会が開催されました。

東北5県の6施設から41名の会員参加がありました。

今回は特別講演として日本赤十字社診療放射線技師会 清水会長の講演をいただき、一般演題として各施設より4題の会員発表がありました。また、かねてより要望のあった当院の施設見学を行いました。研修会前に施設代表者会議を開き、次年度からの東北ブロック理事および東北ブロック委員の変更について話合い、次年度開催場所や内容については新東北ブロック理事の秋田赤十字病院の方針に沿うこととしました。

施設見学については3班に分かれて、本棟（放射線部を主に）、北棟（救急救命センター、健診センター、血管撮影室）、本棟免震構造等を見学しました。

研修会プログラム

12：45　開場・受付開始

13：00　施設代表者会議

13：30　開会の挨拶

総合司会　石巻赤十字病院　及川　順一

13：35　特別講演

【座長】仙台赤十字病院　安彦　茂

「日本赤十字社診療放射線技師会の活動を未来に繋ぐ」

日本赤十字社診療放射線技師会　会長　清水　文孝

14：35　一般演題

【座長】石巻赤十字病院　山内　佑一

1. 「当院における整形領域Virtual Grid の撮影条件の検討」

石巻赤十字病院　佐々木　克樹

2. 「側定数が測定値の信頼性と妥当性に与える影響」

八戸赤十字病院　古村　茂樹

3. 「骨密度撮影における精度向上の検討」

仙台赤十字病院　鈴木　陽

4. 「当院の造影 CT 検査における副作用対応の検討」

福島赤十字病院　伊藤　美穂

15：15　休憩

15：30　施設見学

16：45　集合写真撮影・閉会

第 29 回　日本赤十字社診療放射線技師会　東部ブロック研修会

開催病院　大森赤十字病院

大森赤十字病院

会場：大井町阪急アワーズイン

平成 28 年 11 月 5 日（土）～6 日（日）の 2 日間の日程で品川区大井町の阪急アワーズインにおいて、第 29 回日本赤十字社放射線技師会東部ブロック研修会を開催しました。今回の研修会には東部ブロック赤十字病院より 17 施設 70 名の参加がありました。

1 日目の研修は、教育講演として大森赤十字病院整形外科部長　大日方嘉行先生から「スポーツ整形外科と放射線科」と題しての講演でした。J リーグのチームドクターでもある大日方先生から J リーガーの話題を交えながら整形外科と放射線科との関係について話をしていただきました。会員発表は 11 題を 2 部に分けて実施しました。前半 5 題は各モダリティーや業務上の問題点についての演題、後半 6 題は技師歴 3 年以内の人たちの発表でした。これは今回、各病院にお願いして若い技師の育成を目的に企画したものです。1 日目の研修会終了後、施設代表者会議が開催され現状の課題について検討されました。その後、情報交換会が行われ各病院での共通の問題や話題について活発な意見交換がされました。それぞれの病院の垣根を越えた会となり、日常的にも連絡が取り合える関係もできました。

2日目は特別講演「身近なようで案外知らない貝類たちの生活事情」を神奈川県立生命の星・地球博 物館の佐藤武宏先生からお話しいただきました。日常で関わることがほとんどない分野の講演で興味ある内容でした。会員発表は5題、内容は撮影に対する新たな試み、業務の変化について等様々なテーマ で行われました。技師会講演は「国際救援における診療放射線技師の活動」の演題で名古屋第二赤十字病院の駒井一洋課長からお話しいただきました。海外派遣を何回も経験された駒井課長の講演は国際救援の必要性を強く感じるものでした。
以上の内容で研修会を終えました。清水会長はじめ、各病院の皆様のご協力のおかげで開催を終えましたことを感謝いたします。

研修会プログラム

1 日目　13：00～16：30

12：30　受付開始

13：00　開会式

大会長挨拶

大森赤十字病院　樋口　新一

事務部長挨拶

大森赤十字病院　宮下　博

13：10　会長挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会　会長　清水　文孝

13：20　教育講演

【座長】大森赤十字病院　五十嵐　豊

「スポーツ整形外科と放射線科」

大森赤十字病院　整形外科部長　大日方　嘉行　先生

14：10　休憩

14：20　一般演題Ⅰ

【座長】武蔵野赤十字病院　安廣　哲

大森赤十字病院　工藤　一洋

1. 当院での小児胸部 XP における読影医からの指摘事項

那須赤十字病院　建石あかり

2. PET/CT 検査における呼吸同期収集法の有用性

長岡赤十字病院　楳田圭介

3. JCI 受審を契機とした Stat（緊急画像）報告体制の構築について

足利赤十字病院　大川公利

4. X 線透視 TV 装置室の多目的利用とその効果について

秦野赤十字病院　西山和幸

5. 電子カルテ運用に伴い画像検査、管理、参照の統合化を経験して

秦野赤十字病院　湯山浩司

15：10　休憩

15：20　一般演題Ⅱ（技師歴 3 年未満）

【座長】大森赤十字病院　前川　賢斗

東　香奈江

6. FPD 導入と線量、画質の比較検討

横浜市立みなと赤十字病院　秋葉　涼子

7. バーチャルグリッドを使用した全脊柱撮影の検討

日本赤十字社医療センター　加藤　紀明

8. 201Tl 負荷心筋シンチグラフィにおける撮像プロトコルの検討

武蔵野赤十字病院　穴田　有美

9. Dual Energy CT を用いた肺動静脈分離 1 相撮影の試み

武蔵野赤十字病院　小川　亮

10. 当院における KYT（危険予知トレーニング）に参加して

深谷赤十字病院　小島　萌

11. MTF の測定方法および誤差低減の検討

大森赤十字病院　浮須　夢

16：20　休憩・注意事項・その他

16：30　施設代表者会議

進行　樋口　新一

議長　東部ブロック理事　尾方　智幸

17：30　情報交換会

2 日目　9：00～12：00

8：30　開場

9：00　特別講演

【座長】大森赤十字病院　樋口　新一

「身近なようで案外知らない貝類たちの生活事情」

神奈川県立生命の星・地球博物館　専門学芸員　佐藤　武宏　先生

9：50　休憩

10：00　一般演題Ⅲ

【座長】武蔵野赤十字病院　増島　一貴

大森赤十字病院　工藤　一洋

1. k-space の理解

日本赤十字社医療センター　井上　拓

2. ER 体制やドクターカーの開始による放射線業務の変化

さいたま赤十字病院　大河原　侑司

3. 冠動脈 CT 撮影におけるインデラル・コアベータの併用に関する検討

日本赤十字社医療センター　岡　雄介

4. 当院における MRI 検査時の問診の取り方の問題と今後の対策について

成田赤十字病院　米山　友明

5. 当院における乳がん診療への放射線技師の関わり

原町赤十字病院　萩原　健

10：50　休憩

11：00　技師会公演

【座長】大森赤十字病院　中村　有利

「国際救援における診療放射線技師の活動」

名古屋第二赤十字病院　駒井　一洋

11：50　次回当番病院挨拶

閉会式

第７回　日本赤十字社診療放射線技師会　中部ブロック研修会報告

担当病院　名古屋第一赤十字病院

名古屋第一赤十字病院　正面近景

9 月に入ってもいまだに続く厳しい暑さの中、第 7 回中部ブロック業務研修会を平成 28 年 9 月 10 日（土）・9 月 11 日（日）の 2 日間の日程にて当院内ヶ島講堂で開催しました。

今年度業務研修会は、中部ブロック赤十字病院のうち 15 施設より、会員 78 名の参加がありました。

その内容は、初日に当院放射線治療科部長山田哲也先生より、『放射線治療 FAQ』と題して特別講演をいただき、引き続き『放射線部門の医療安全』をテーマに、モダリティ毎に 6 施設のパネラーを指名してパネルディスカッションを行いました。医療安全は業務の中でも最重要であり、会場では活発な意見交換がありました。次に専門部会毎にミーティングの場を設け各施設の諸問題等を情報交換しました。どの専門部会も多様な問題点・情報を共有することができたようです。このような施設間での情報共有は、非常に有意義かつ重要であると毎回痛感します。また同時に、中部ブロック代表者会議を開催しました。

2 日目は 3 施設より 5 題の会員発表で始まり、続いて『新人技師の教育』をテーマとして、本研修会 2 つ目のパネルディスカッションを行いました。4 施設から各施設での新人教育の実際と問題点や特徴を提供してもらい、前日同様座長とパネラーを中心として熱心に討議してもらいました。プログラムの最後には、メーカー講演として本年 6 月販売開始となった新内用療法剤（放射性医薬品）についての話題を提供していただき終了しました。閉会後希望する会員のみなさんに当院のハイブリッド手術室の見学をしてもらいました。

会員各位のご協力により盛会裏に閉会となったことをここに報告し、皆様に深く感謝申し上げます。

滝　技師長（名古屋第一）

宮田　院長（名古屋第一）

清水　会長（日赤技師会）

特別講演　名古屋第一赤十字病院 山田哲也先生

１日目　『放射線部門の医療安全』

パネルディスカッションの様子

会員研究発表

施設見学　『ハイブリッド手術室』

会場風景　当院『内ヶ島講堂』

日　時 ： 平成 28 年　9 月 10 日（土），9 月 11 日（日）
場　所 ：名古屋第一赤十字病院　内ヶ島講堂（東棟 2 階）

研修会プログラム

第 1 日目

13：00　当番病院　挨拶

名古屋第一赤十字病院　放射線診断科部・治療科部　技師長　滝　一郎

13：05　名古屋第一赤十字病院　院長挨拶

名古屋第一赤十字病院　院長　宮田　完志

13：15　日本赤十字社診療放射線技師会　会長挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会　会長　清水　文孝

13：25　特別講演

【司会】名古屋第一赤十字病院　林　隆宏

『放射線治療 FAQ －よくある質問－』

名古屋第一赤十字病院　放射線治療科　部長　山田　哲也

14：40　パネルディスカッション：

『放射線部門の医療安全』～モダリティ別の医療安全に対する取り組み～

【座長】名古屋第一赤十字病院　高橋　徳史

1.『放射線部門の医療安全　一般撮影・救急撮影』

名古屋第二赤十字病院　桑原　和義

2.『CT 検査』

長野赤十字病院　穐澤　有香

3.『MRI 部門における医療安全について』

名古屋第一赤十字病院　鈴木　厚次

4.『放射線部門の医療安全　－核医学－』

浜松赤十字病院　坪井　孝達

5.『放射線治療の医療安全』

福井赤十字病院　大西　一幸

6.『血管撮影室における医療安全』

静岡赤十字病院　福田　光記

16：20　ブロック代表者会議・専門部会ミーティング

【代表者会議】：ブロック理事活動報告・改選、その他

担当　滝　一郎

【CT】：TAVI 術前プランニング用 CT の紹介

担当　高橋　徳史

【MRI】: MRI の安全対策や実際に起こったインシデント、役立つテクニック

担当　鈴木　厚次

【放射線治療】: 装置紹介、見学、業務の悩み相談、意見交換会

担当　林　隆宏

【核医学】: 放射線医薬品納入日の変更に伴う諸影響について

担当　田中　宏征

【乳房撮影】: トモシンセンスの原理とその応用

担当　井口　理江

【医療情報】: システムダウン時の業務運用について

担当　日下　祐介

17：30　終了・移動

18：30　情報交換会

第 2 日目

9：00　会員研究発表

【座長】名古屋第一赤十字病院　伊藤　哲朗

1.『当院診療放射線技師が報告したインシデントレポート ー疑義照会に注目してー』

名古屋第一赤十字病院　戸田　沙希

2.『日本赤十字社中部ブロック診療放射線技師交換研修制度について』

伊勢赤十字病院　伊藤　伸太郎

3.『中部ブロック・診療放射線技師の人事交流を経験して』

高山赤十字病院　中井　良則

4.『当院での CT 造影検査における造影剤の副作用発現率について』

伊勢赤十字病院　幕谷　幸弘

5.『頭部 3DCTA における Virtual Monochromatic Imaging の有用性』

名古屋第一赤十字病院　平井　丈温

10：00　パネルディスカッション：『新人技師の教育』～新入職した診療放射線技師の教育に対する取り組み

【座長】名古屋第一赤十字病院　礫石　伸治

1.『放射線科部における新人診療放射線技師の教育プログラムの取り組み』

名古屋第一赤十字病院　小田　哲意

2.『新人教育』

伊勢赤十字病院　小林　篤

3.『新人教育と管理目標について』

名古屋第二赤十字病院　有賀　英司

4.『新人技師の教育 =福井赤十字病院=』

福井赤十字病院　西島　大貴

11：00　メーカー学術講演

【座長】名古屋第一赤十字病院　田中　宏征

『塩化ラジウム(^{223}Ra)注射液を用いる内用療法について』

バイエル薬品株式会社　腫瘍・血液領域事業部　ゾーフィゴマーケティング

ラディエーションエキスパート　筒井　弘一

12：00　閉会の挨拶

閉会後、希望者に対してハイブリッド手術室に設置された多軸血管撮影装置の見学を実施します。

（敬称略）

第 25 回　日本赤十字社診療放射線技師会　近畿ブロック研修会報告

近畿ブロック地域理事

長浜赤十字病院　　奥出　隆夫

開催日時：　平成 29 年 2 月 25 日（土）～26 日（日）

開催場所：　大阪赤十字病院放射線科・看護学校合同教室

今年度の近畿ブロック研修会は、 大阪赤十字病院にて開催され近畿地域 内全施設の 13 施設から 99 名の参加 がありました。

今年の開催テーマは「災害医療」です。

基調講演『赤十字と災害救護について』では、高槻赤十字病院事務部長神谷尚孝先生を迎えて赤十字精神や赤十字事業について、特に災害救護についてのお話を頂きました。先生は診療放射線技師として入職され、大阪府支部を経て高槻赤十字病院の事務 部長に就かれておられます。大阪府支部時代の国際救援活動や阪神淡路大震災での経験談を拝聴することが出来ました。

続いて大阪赤十字病院松下賢作氏より、熊本地震での d-ERU による災害医療の活動について、発災から現地到着までの初期対応、d-ERU の設営から運用、d-ERU システム構成、d-ERU コンテナ内での放射線診療活動、また被災者の方々とのレクレーション活動の報告がありました。

また災害支援部活動では神戸赤十字病院中田正明氏 より、日立メディカル社からポータブル装置を借用 しての放射線診療活動報告がありました。今回の熊本地震ではニーズを把握して、装置や人的支援の活動が出来たが、幾多の課題も見えたと提起されていました。

パネルディスカッションでは災害対策『来るべき大災害が来る前に』と題して日本赤十字診療放射線技師会災害医療支援部駒井一洋氏と中田正明氏にコメンテーターに就いて頂き、 災害時における①発災時の当院連絡方法②災害医療用オーダー方法③画像提供方法④備蓄（非常電源）⑤その他（BPC や施設間での合同訓練）のテーマについて施設毎にディスカッションを行いました。

会員研究発表は若手を中心に 7 演題あり、最優秀賞に高槻赤十字病院の原祥太郎さん、 優秀賞に長浜赤十字病院の渋谷真緒さんが選ばれました。

夕方からは、情報交換会が開催され、各テーブルとも施設の垣根を超えさらなる意見の 交換が持たれました。

2 日目のグループワークでは、一昨年のブロック研修より引き継がれている部門別ミーティングが行われました。今年の部門は血管造影部門、MRI 部門、CT 部門、一般撮影部門、 治療部門、RI 部門の 6 部門で、本年度は更に診療現場を会場として、実機を使ってのパラ メーター検討・装置点検項目・ワークフローなどの情報交換が行われました。

また、d-ERU にて使用された撮影機器も組立て展示されました。

部門別ミーティングに並行して、施設代表者会議も開催され各施設での問題点の協議が持たれました。

研修会プログラム

会場：ホテルアウイーナ大阪 3F

12：00～　受付開始

13：00～　開会式　オリエンテーション

13：10～　基調講演

『赤十字と災害救護について』

講師：高槻赤十字病院　事務部長　神谷　尚孝

13：40～　平成28年度熊本地震活動報告

『大阪赤十字病院放射線活動記録』

大阪赤十字病院　放射線科　松下　賢作

『熊本地震における日本赤十字社診療放射線技師会の活動』

日本赤十字診療放射線技師会　災害医療支援部　中田　正明

14：30～　パネルディスカッション災害対策

『来るべき大災害が来る前に』

日本赤十字診療放射線技師会　災害医療支援部　駒井　一洋

日本赤十字診療放射線技師会　災害医療支援部　中田　正明

16：40～　会員研究発表

1. 定位放射線治療におけるInternalおよびSet up marginの評価

京都第一赤十字病院　山下　立馬

2. 全身照射における治療時間短縮の取り組み

大津赤十字病院　大西　一由

3. 当院における IVR での散乱線による術者被ばく線量の測定

姫路赤十字病院　山本　悠介

4. X 線防護着の管理について

高槻赤十字病院　原　祥太郎

5. 一般撮影領域での FPD システムでの使用経験

神戸赤十字病院　野山　恭旦

6. ポータブル撮影での FPD システムの使用経験

神戸赤十字病院　西海　哲也

7. FPD 搭載コンソール一体移動型X線装置におけるバッテリー運用方法の検討

長浜赤十字病院　渋谷　真緒

19：00～　情報交換会

2 日目

会場：大阪赤十字病院放射線科及び看護学校合同教室

9：00～11：15　モダリティー別ワークショップ　検査室内実機を用いた研修

1. 血管造影部門、2. MRI 部門、3. CT 部門、

4. 一般撮影部門、5. 治療部門、6. RI 部門

9：15～11：15　施設代表者会議

11：15～施設見学

第６回　日本赤十字社診療放射線技師会　中国・四国ブロック研修会報告

会　期　：　平成29年2月4日（土）・5日（日）
会　場　：　広島赤十字・原爆病院（1日目)・広島がん高精度治療センター（2日目）

田中　久善（広島赤十字・原爆病院）

本年度で6回目となる本研修会です。昨年度に続き2日間の研修を企画し、2日目は他施設（広島がん高精度放射線治療セ　ンター）の見学を企画いたしました。多くの施設からご参加いただき、中四国会員、講師を含め40名、当院の技師22名の総 62名の出席でした。　研修会に先立って、当院の施設見学を行いました。当院は現在病院再整備事業を進めており、一昨年東棟が完成し、現在既存棟の改修や取り壊し、平面駐車場の整備などが進められています。参加者の皆さんには、新しく完成した救急部門や内視鏡専用の透視室、昨年導入されたCT、MRI等すべての部門を見学していただきました。短い時間でしたが、たくさん情報交換をしていただけたのではないかと思います。

「救護活動における診療放射線技師の役割」というテーマを元に、脇谷事務副部長、戸口副会長から講演を頂きました。講演の後に会員発表として、熊本地震で実際に活動を行われた、岡山赤十字病院 秋友先生、徳島赤十字病院 米倉先生に、現場で診療放射線技師としてどのような活動を行ったのか､そこから見えた今後の課題点などを発表していただきました｡最後 に講師、演者の先生に、清水会長、磯田副会長を加えた6名でパネルディスカッションを行いましたパネリストの先生方には活発な討論をしていただきました。

従来、災害発生時の救護班の構成は、医師、看護師、薬剤師、主事で構成され、診療放射線技師は含まれていません。昨年おこった熊本地震では診療放射線技師の派遣要請があり、実際に熊本で活動された方からのお話は、大変貴重で興味深い内容でした。今回派遣されたお二方は、知識と経験が豊富で、管理区域や標識の設定、照射録の準備等も現地で行なわれ、円滑な業務が出来るように活動されていました。今後の活動に向けて技師会で緊急時にダウンロードして持って行けるマニュアルや標識、照射録のフォーマットを用意していただけたらと思います。一日目の研修会が終了して18時30分より、情報交換会を開催いたしました。多数の方に参加していただき誠にありがとうございました。昨年度、鳥取の味覚松葉ガニのコースが好評だったため、今年は牡蠣のコースを期待する声がありましたが、期待に応えられず申し訳ございませんでした。ですが情報交換会では、他施設の方と色々なお話をすることができ、有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。

2 日目は、広島がん高精度治療センターの方にご協力いただき、「広島県のがん治療への取り組みと市内 4 基幹病院との連携」と題して広島がん高精度放射線治療センター診療放射線技師長山田聖先 生の特別講演を拝聴しその後、施設見学を行いました。

広島がん高精度放射線治療センターは広島市内の病院と連携して放射線治療を行う施設で一昨年稼働を開始した新しい施設で、昨年 11 月には、国際的な認定機関により，東アジアで初めて広島がん高精 度放射線治療センターが世界水準の高精度放射線治療の施設として 認定され、順調に治療件数も増えてきています。治療装置も最新の装置を揃え、精度の高い放射線治療を行っています。

また、人材の育成にも力を入れられており、広島市内 4 病院から技師を広島がん高精度放射線治療センターに派遣し、研修を行う事でスキルアップを行っていきたいというお話もありました。

施設見学では、現在稼働している 3 台 の治療装置をはじめ、治療計画や、経過を評価する為のCT、MRIや一般撮影装置、透視装置を見学しました。治療装置は、高 精度な治療を中心に行う装置や一般的な治療を行う装置と治療方法に合わせて使い分けをされていました。参加者は、最新の装置に興味を持たれていました。山田技 師長をはじめ休日にもかかわらず対応していただいた、スタッフの皆様ありがとうございました。

次回29年度は松江での開催となります。清水会長からの挨拶でもありましたが、6 月には東京で診療放射線技師会学術総会が、10月には仙台で日本赤十字社医学会総会が開催されます。松江の前 に東京、仙台でまたお会いできることを楽しみに研修報告を終えたいと思います。本部役員の皆様、遠方よりお越しいただきた皆様のおかげで、第6回日本赤十字社診療放射線技師会中国・四国ブロック研修会を無事終了する事が出来ました。誠にありがとうございました。

研修会プログラム

～テーマ～「救護活動における診療放射線技師の役割」

1 日目

12：30～　受付開始

13：00～　施設見学

13：30～　施設代表者会議（多目的室 1）

【司会】広島赤十字・原爆病院　山根　健二

14：00～　開会挨拶

広島赤十字・原爆病院　田中　久善

14：10～　会長挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会　会長　清水　文孝

14：30～　講演

【座長】庄原赤十字病院　宇山　浩文

「災害救護班の組織体制について」

広島赤十字・原爆病院　事務副部長　脇谷　孔一

15：05～　講演

【座長】庄原赤十字病院　宇山　浩文

「震災救護活動における診療放射線業務について」

日本赤十字社診療放射線技師会　副会長　戸口　豊宏

15：40～　会員発表

【座長】三原赤十字病院　藤本　一雄

「救護所での診療放射線業務」

岡山赤十字病院　秋友　信男

徳島赤十字病院　米倉　広宣

16：30～　パネルディスカッション

【座長】広島赤十字・原爆病院　神田　耕治

救護活動における診療放射線技師の役割

～福島原発事故・熊本地震を経験して～

18：30～　情報交換会

2日目

9：00～　特別講演

【司会】広島赤十字・原爆病院　野崎　浩茂

【座長】広島赤十字・原爆病院　田中　久善

「広島県のがん治療への取り組みと市内４基幹病院との連携」

一般社団法人広島県医師会 広島がん高精度放射線治療センター

診療放射線技師長　山田　聖　先生

10：00～　施設見学「広島高精度治療センター」

11：30～　閉会挨拶

広島赤十字・原爆病院　田中　久善

第 17 回　日本赤十字社診療放射線技師会　九州ブロック研修会報告

開催日：平成 28 年 9 月 24 日（土）・25 日（日）

場所：大分赤十字病院 管理棟 5F　大会議室

今回の九州ブロック研修会は、例年と趣向を変えて、原子力災害における救護活動を テーマに行いました。九州から 39 名の参加があり、1 日目は講習を、2 日目は実習中心に行いました。このような形での研修会は初めての試みでしたが、盛会に終える事ができました。情報交換会では、ふぐ料理に舌鼓を打ち、ふぐ肝を初めて食した会員も多くみられました。

以下に研修会内容を記します。

1 日目

大分赤十字病院 本廣 院長挨拶

開会の辞　大分赤十字病院 戸口 技師長

講義 1　**「原子力災害~備えと救急時対応~」**

大分県立看護科学大学 環境保健学研究室 教授 甲斐 倫明 先生

甲斐先生の講演では、福島原発事故を例に、事故からの教訓や、それによって顕在化したこと。また、診療放射線技師に期待されること等、わかりやすく講演していただきました。

甲斐先生の講演では、福島原発事故を例に、事故からの教訓や、それによって顕在化したこと。また、診療放射線技師に期待されること等、わかりやすく講演していただきました。

講義２　「災害救護活動における放射線防護の基礎知識」

日本赤十字社長崎原爆病院 血液内科 部長 城 達郎 先生

城先生の講演では、広島・長崎の原爆を例にわかりやすく説明していただき、チェルノブイリ事故と福島原発事故は被害の 程度に、こんなにも差があるのは？といった大変興味深い 内容で、防護の話だけではなく幅広く講演していただきました。

講義３　「日本赤十字社診療放射線技師会災害医療支援部の活動」

日本赤十字社診療放射線技師会　災害支援部　理事

名古屋第二赤十字病院　駒井　一洋

駒井理事の講演では、赤十字放射線技師会 災害医療支援部の活動を詳しく、海外での活動も踏まえて報告されました。また、原子力災害対応のうごき、救護対応マニュアルの整備等の報告もされました。

講義４　「原子力災害における安全確保について」

唐津赤十字病院 坂井 誠一郎

坂井さんの講演では、原子力災害では放射線対応支援要員として、放射線技師が救護班に主事ではなく、放射線技師として編成されること。そのためには、放射線防護の教育や研修が必要で あること。救護班の中で、放射線対応支援要員として求められる ものとは何か。具体的にわかりやすく講演していただきました。

２日目

講義・実習１　**「サーベイメータ・個人被ばく線量計の保守管理と使用方法」**

日本赤十字社診療放射線技師会 副会長

松江赤十字病院 磯田 康範

磯田副会長の講演では、サーベイメータとデジタル個人線量計の取り扱いや、スクリーニング方法など実習を交えて、わかりやすく講演していただきました。

講義・実習 2　「防護服着脱方法」

日本赤十字社 長崎原爆病院 前田 夕介

前田さんの講演では、防護服の着脱方法での留意点を、実習を交え講演していただきました。坂井さんの、ちょっとしたミニレクチャーもありました。

講義・実習 3　「原子力災害における空間線量シミュレーション」

日本赤十字社診療放射線技師会　災害支援部　理事

名古屋第二赤十字病院　駒井　一洋

駒井理事の講演では、シミュレーションで各地区の空間線量率と そこでの活動時間や移動時間を設定してもらい、3日間で 1mSv 以下にするには?というテーマで活動内容を考えました。

閉会の挨拶

閉会の挨拶は、次回担当病院である長崎原爆諫早病院の大町さん、長崎原爆病院の宮本さんにしていただきました。

皆さまに、全体的に内容の濃い研修会であったと、おっしゃっていただきました。 講師の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

専門部報告

平成 28 年度活動案として、専門部活動の活性化を図るために専門部員登録を進めてきた。
これまでの専門部（CT、MRI、医療画像情報、乳房画像、治療、核医学）6 部門にて活動しているが近年、デジタル画像が急速普及する中で、一般・透視とアンギオの 2 部門を追加登録とした。また IT 推進部と連携して、会員 SNS の利用状況が向上し、各部門にて連携し会員に相互の情報を提供した。

1. 平成 28 年度　専門部世話人会議

平成 29 年 2 月 25 日（土）13:00～17：00
日赤医療センター　12 階会議室
出席者　専門部世話人　14 名　理事　7 名
〈議事内容〉
① 学術総会活動
② 検査方法
③ 医療安全
④ チーム医療
⑤ 医療監査等に関する書類
⑥ 災害医療への協力
⑦ SNS 活用方法
⑧ 世話人更新

2. 専門部登録状況（平成 29 年 2 月 28 日現在）

CT、MRI、医療画像情報、乳房画像、治療、核医学　63%（58 施設/92 施設）
一般・透視、アンギオ　13%（12 施設/92 施設）

3. 部門活動

【CT】
世話人：河本勲則（京二）、加賀久喜（大阪）、笹田勇造（成田）、川嶋宏樹、小林弘幸（和歌山）
①施設紹介、アンケート調査報告（ホームページ掲載）
②会員からの質問対応
③平成 28 年学術総会座長、シンポジスト（乳がん）

【MRI】
世話人：大澤哲平（八戸）、宇田暢樹（小川）、佐藤統幸（大田原）、揚出泰弘（秋田）
①SNS による質問対応
②装置リスト情報収集
③平成 28 年学術総会座長、シンポジスト（乳がん）
④医療安全情報取得

【治　療】

世話人：小山登美夫（長野）、上田真吾（松山）、簾谷和夫（足利）、丸山大樹（日赤医療センター）

①ホームページ利用促進、情報発信

②施設間交流（武蔵野赤十字）、近隣施設との情報交換

③SNS にて会員からのわかりやすい質問システム構築

④平成 28 年学術総会座長、シンポジスト（乳がん）

【核医学】

世話人：小池克美（さいたま）、坪井孝達（浜松）、星野洋満（前橋）、岸本義幸（神戸）

①装置リスト調査中

②検査数、保守点検、管理状況の取得

③学術総会開催案内（第 36 回日本核医学会・技術学会）

④平成 28 年学術総会座長、シンポジスト（乳がん）

【医療画像情報】

世話人：加藤秀之（松江）、西小野昭人（熊本）、西村英明(福井)

①平成 28 年学術総会シンポジウム（乳がん）について

②メーリングリストにて調査、

【乳房画像】

世話人：尾形智幸（さいたま）、西関剛（長浜）、梶迫絵美（京二）、出井愛子（大森）

①平成 28 年学術総会シンポジウム「乳がんー診断から治療ー」の提案、座長およびシンポジスト

2016 年度

災害医療支援部報告

【国内災害】

1. 熊本地震対応

（株）日立製作所の協力により、被災地救護所へポータブル撮影装置を設置。救護班に帯同した診療放射線技師によって、X 線撮影等診療補助活動を行った。

同時に、救護所に富士フイルムの協力によりポータブルエコー装置の設置も行った。

［支援期間］　2016 年 4 月 22 日（土）～27 日（水）

［支援場所］　熊本県益城町総合体育館避難所

［連絡調整］　戸口豊宏（副会長）・中田正明（神戸・災害医療支援部）
安部一成（中・四国ブロック理事）

［設置担当者］　坂井征一郎（唐津・災害医療支援部）
秋友信男（岡山）・岡川貢（高松）

［撮影担当者］　坂井征一郎（唐津・災害医療支援部）・秋友信男（岡山）
岡川貢（高松）・米倉広宣（徳島）・岡田秀美（三原）　（敬称略）

［撮影患者数］　17 人

2. 被災病院への診療放射線技師派遣についての本社への働きかけ

東日本大震災においても平成 28 年熊本地震においても、被災地の赤十字病院へ被災地外からの技師の支援は行われなかった。その大きな要因は、被災病院の放射線科から支援要請が出なかったことであるが、本社の支援対象が基本的に医師・看護師・主事であることも少なからず影響している。バランスの良い病院支援を行うため、上記支援対象にコメディカルを加えるよう本社医療事業推進局に要望するとともに、放射線科が支援要請を出さなかった理由の一つに、装置メーカーによる放射線機器操作の独自性を挙げ、支援要員の選出には注意を要すること、その点で技師会がお手伝いできる可能性があることを示した。

上記事項は 2 回にわたる協議の末、コメディカルを支援対象に加えることを、医療事業推進本部から社内提案することが決まった（2017.02.17）。

3. 可搬型デジタル X 線撮影装置の活用

東日本大震災の折、（株）キヤノンマーケティングジャパンから日本赤十字社に 5 台の可搬型デジタル X 線撮影装置（CXDI-50G）が寄贈され、東北各地へ配備されたが、現在は使命を終え本社で保管されている。それらの今後の有効利用方法を本社救護福祉部と協議中。

4. 国内災害担当者増員

第 3 回常任理事会にて、以下の方々が国内災害担当者として承認された。

山根　晴一　（鳥取赤十字病院）

嶋田　祐子　（大阪赤十字病院）

及川　林（しげる）（石巻赤十字病院）　　（敬称略）

5. 第 25 回日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック研修会への講師派遣（2017.02.25）
「熊本地震における日本赤十字社診療放射線技師会の活動報告」（中田）
「パネルディスカッション災害対策『来るべき大災害が来る前に』」（駒井・中田）

6. 学会発表等
・第 32 回日本診療放射線技師学術大会（2016.09.16-18）
「日放シンポジウム 1（災害対策委員会）熊本地震への対応と今後の地震対策：日本赤十字社放射線技師会の活動」（中田）
「日本赤十字社診療放射線技師会における熊本地震に対する支援活動について～東日本大震災の活動からの進歩～」（中田）
・第 22 回日本集団災害医学会総会・学術集会（2017.02.13-15）
「日本赤十字社診療放射線技師会における熊本地震に対する支援活動報告」（中田）

【原子力災害】
1. 原子力災害対応基礎研修会参加
平成 28 年度日本赤十字社第 4 ブロック原子力災害対応基礎研修会
（2016.11.26 大阪　磯田・駒井・松井・坂井）
平成 28 年度日本赤十字社第 6 ブロック原子力災害対応基礎研修会
（2017.01.18 福岡　駒井・坂井・高本）
平成 28 年度日本赤十字社第 2 ブロック原子力災害対応基礎研修会
（2017.02.22 東京　磯田・駒井・松井・高本）
今年度からブロック単位の開催になった。講師は開催ブロック、近隣ブロック所属の技師を中心に選定した。

2. 緊急被ばく医療アドバイザー会議への出席
平成 28 年度第 1 回日本赤十字社緊急被ばく医療アドバイザー会議（2016.07.21-22）
平成 28 年度第 2 回日本赤十字社緊急被ばく医療アドバイザー会議（2016.12.12-13）
（磯田・駒井・松井・坂井・高本）

3. 原子力災害対応検討委員会への出席
平成 28 年度第 1 回日本赤十字社原子力災害対応検討委員会（2016.11.09）
平成 28 年度第 2 回日本赤十字社原子力災害対応検討委員会（2017.01.31）
（駒井）
当委員会は日赤の原子力災害対応において、全社的に取り組む必要のある課題について検討し、必要な対応策を講じることを目的として、今年度新たに設置された。
主に原発事故被災病院の病院避難、被災病院からの患者受け入れ、被災病院への支援について協議された。

4. 第 17 回日本赤十字社診療放射線技師会九州ブロック研修会への講師派遣（2016.09.24-25 大分）
「日本赤十字社診療放射線技師会災害医療支援部の活動（原子力災害について）」
（駒井）
「放射線防護資機材について・原子力災害における安全確保について」（坂井）
「サーベイメータ・デジタル個人被ばく線量計の保守管理と使用方法」（磯田）
「線量計算」（駒井）

5. IFRC (CB)RN WORKSHOP 参加（2016.12.05-09 ウィーン）（駒井）
2017 年 10 月に策定された国際赤十字赤新月社連盟の“Nuclear and Radiological Emergency Guidelines”の内容に基づき、各国赤十字赤新月社が自社の原子力災害対応能力を向上させることを目的として開催された、初めてのワークショップ。連盟 CBRN 災害担当官、オーストリア赤十字社の運営の下、参加者は 15 社からの災害企画担当者 20 名。日本からの参加者は駒井を含め 2 名で、日本赤十字社の原子力災害への取り組みと、福島の現状についての報告も行った。

【国際救援】
1. 平成 28 年日本赤十字社診療放射線技師学術総会にて海外派遣報告（2016.06.03-04）
「ネパール地震救援事業における診療放射線技師の活動」（駒井）

2. 第 29 回日本赤十字社診療放射線技師東部ブロック研修会にて講演
(2016.11.05-06 東京)
「国際救援における診療放射線技師の活動」（駒井）

【災害医療支援部会】
2017年2月24日(金)に神戸赤十字病院にて開催。
出席者は磯田康範副会長他、全災害医療支援部員が出席。今年度の反省と来年度の活動方針が協議された。

各ブロック研修会など

平成 29 年度

日本赤十字社診療放射線技師会　北海道地区会
第２７回総会並びに研修会　日程表

開催日時　：　平成 29 年 9 月 30 日（土）　12:00 から
　　平成 29 年 10 月 1 日（日）　12:00 まで
開催場所　：　日本赤十字社　北海道支部奉仕団活動室
　　〒060-0001 札幌市中央区北１条西５丁目
　　(Tel)011-231-7126

第１日目　平成 29 年 9 月 30 日（土曜日）

12:00　～　12:40　　受付・参加登録

座長・・・釧路赤十字病院　　多津美　敦
小清水赤十字病院　　河村　康広

12:45　～　14:30　　会員研究発表

（１）術後手関節側面撮影の検討
旭川赤十字病院　〇飯田　紘久、増田　安彦、
東堂　剛三

（２）FPD を使ったステンバース撮影補助具の検討
北見赤十字病院　〇大友　厚志、中島　勲

（３）Single　Shot　TFE 法を用いた非造影下枝 MRA の臨床検討
北見赤十字病院　〇岩橋　秀樹、大友　厚志、
小笠原　尚樹、菅野　裕幸

（４）PTE 診断における単純 CT 所見に関する検討
旭川赤十字病院　〇高田　直行

（５）心エコー検査におけるファブリー病の一例
浦河赤十字病院　〇三浦　康成、藤村　仁

（６）X 線 TV 装置における事故防止対策と業務改善の工夫
釧路赤十字病院　〇相山　幸紀

（７）放射線科における感染対策、手指衛生向上の取り組み
伊達赤十字病院　〇竹内　佳輝

座長・・・釧路赤十字病院　　熊谷　敬広

14:40　～　16:10　　技術交流

「一般撮影における創意工夫など」　　各施設発表

座長・・・北見赤十字病院　　相澤　幹也

16:20　～　17:20　　教育講演

「一般撮影の見直しの中で」

清水赤十字病院　　中川　英之　様

17:30　～　18:00　北海道地区会　総会

19:00　～　　情報交換会

第 2 日目　平成 29 年 10 月 1 日（日曜日）

9:10　～　9:30　受付

座長・・・・・旭川赤十字病院　増田　安彦
釧路赤十字病院　相山　幸紀

9:30　～　10:30　ワークショップ
「日本赤十字社の原子力災害対策と診療放射線技師」
「原子力災害に対する行政の体制」
「原子力災害時の救護活動における技師の役割」

長浜赤十字病院　松井　久雄　様
唐津赤十字病院　坂井　征一郎　様
名古屋第二赤十字病院　駒井　一洋　様

災害医療支援部　駒井さん

災害医療支援部　松井さん

災害医療支援部　坂井さん

座長・・・・・釧路赤十字病院　工藤　武志

10:40　～　11:10　特別講演

「これから日赤の放射線技師が求められること」

日本赤十字社診療放射線技師会　会長

仙台赤十字病院　　安彦　茂 様

～　12:00　閉会

平成 29 年度　日本赤十字社診療放射線技師会　東北ブロック研修会開催報告

東北ブロック理事　秋田赤十字病院　三浦　司

平成 29 年 9 月 30 日（土）13 時 30 分より、秋田赤十字病院多目的ホールにおいて平成 29 年度日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック研修会を開催した。

東北 5 県 6 施設及び来賓を含め総勢 36 名の参加者であった。

今回は特別講演として、今年度より日本赤十字社診療放射線技師会会長になられた、安彦新会長の講演を頂き、また日本赤十字社診療放射線技師会　災害医療支援部理事である、駒井理事にも講演を頂いた。教育講演としては、富士フイルムメディカル株式会社　販売統括本部　MS 部シニアマネージャー　畔柳先生をお招きし、大変好評であった。

また今回は共同テーマを「産休・育児休暇、前中後の勤務体制」についてシンポジウム形式で行い各病院の現状を発表して頂き、当院を含め産休・育児休暇の経験が少ない病院が多い中、現実的には非常に厳しい状態であることが明らかになった。各施設のスタイルに沿ったスケジュールを構築して頂き、是非とも参考にしてもらいたい。

代表者会議では、主催理事の確認と開催場所の確認を行った。

【プログラム】

12：45　会場・受付開始

13：00　代表者会

13：25　開会の挨拶　秋田赤十字病院　三浦　司

13:30　特別講演　1　座長　石巻赤十字病院　及川　順一

「これから日赤の放射線技師が求められること」

日本赤十字社診療放射線技師会　会長 安彦　茂　様

14：10　特別講演　2　座長　石巻赤十字病院　鎌田　賢治

「原子力災害における診療放射線技師の役割

日本赤十字社診療放射線技師　会災害医療支援部理事　駒井　一洋　様

14：55　休憩（15 分）

15:10　シンポジウム　座長　仙台赤十字病院　玉川　正志

「共同テーマ」＝「産休･育児休暇、前中後の勤務体制について」

八戸赤十字病院　大澤　哲平

盛岡赤十字病院　藤村　貴順

仙台赤十字病院　笹　優子

石巻赤十字病院　高橋　和也

福島赤十字病院　羽貝　寿子

秋田赤十字病院　大隅　康之

16：00　教育講演　　座長　秋田赤十字病院 三浦　　司

「富士フイルムの X 線画像処理の変遷と将来への期待」

富士フイルムメディカル株式会社　販売統括本部

MS 部シニアマネージャー　畔柳　宏之　先生

17：00　集合写真撮影・閉会

安彦会長講演

駒井理事講演

シンポジスト

教育講演　畔柳先生

集合写真

情報交換会

平成 29 年度　日本赤十字社診療放射線技師会　東部ブロック研修会開催報告

開催当番病院：　長岡赤十字病院　田村厚司

平成 29 年 11 月 11 日(土)～12 日(日)　長岡グランドホテルにおいて、
平成 29 年度日本赤十字社診療放射線技師会　東部ブロック研修会を開催した。

開会日直前に 2 名の欠席(那須：山下明、深谷：飯島秀信)が生じたが、最終的に 8 県 18 施設および来賓を含め 79 名の参加者であった。

今回は安彦茂新会長から会長講演を頂いた。教育講演として、群馬県立県民健康科学大学の佐々木浩二先生からは放射線治療に関するご講演、ならびに長岡赤十字病院の西原眞美子先生からは救急外来の頭部 CT で見られる重要な所見について、また特別講演としては、長岡造形大学の和田裕先生から「人間中心設計」についてのご講演を頂いた。

代表者会議では、来年度春開催の代表者会議の場所および日程、次回以降の東部ブロック当番病院の確認、ブロック委員選任方法の確認、今後のブロック研修会では会長講演と災害講演が必須となることなどを討議した。

【プログラム】

11 月 11 日(土)　　会場　4 F 蒼柴

12：30　受付開始

13：00　開会式

大会長挨拶　　長岡赤十字病院　　林　智

院長挨拶　　長岡赤十字病院　　川嶋　禎之

13：15　会長講演

「これからの日赤の放射線技師が求められるもの」

日本赤十字社診療放射線技師会　　会長　　安彦　茂　様

13：45　教育講演

「イメージガイドによる放射線治療」

群馬県立県民健康科学大学　　教授　　佐々木　浩二　様

14：35　休憩

14：45　一般演題 I

座長　長岡赤十字病院　　菅井　正之

長岡赤十字病院　　神林　裕司

1　一般撮影における読出し装置の違いによる検査時間短縮の検討

日本赤十字社医療センター　　木本　茜緒

2　DMQC ファントムを用いた当院 MMG 装置における CNR・SCTF 管理幅の検討

長岡赤十字病院　　本永　みなみ

3　放射線科におけるインシデント・ヒヤリハット報告への取り組み

さいたま赤十字病院　　石脇　剛弘

4　線量校正における気圧計の精度管理

成田赤十字病院　　髙橋　夕希子

5　頭頸部治療におけるセットアップエラー低減の取り組み

長岡赤十字病院　　野村　知広

15：35　休憩

15：50　特別講演　　座長　長岡赤十字病院　　林　智

「人間中心設計　Human Centered Design」

長岡造形大学　　学長　　和田　裕　様

16：40　休憩

16：50　施設代表者会議　　進行　　林　智

議長　　東部ブロック理事　　大貫　信也

18：00　情報交換会　　会場　２F 悠久

11 月 12 日(日)　　会場　２F 悠久

8：30　開場

9：00　教育講演　　座長　　長岡赤十字病院　　入澤　佳弘

「救急疾患の頭部 CT　　見逃してはいけない所見、放っておいてよい所見」

長岡赤十字病院　　西原　眞美子

9：50　休憩

10：00　一般演題Ⅱ　　座長　　長岡赤十字病院　　若月　栄介

長岡赤十字病院　　飯浜　忠俊

6　私が受けた新人教育～急性虫垂炎～

深谷赤十字病院　　小島　萌

7　胸腹部撮影における撮影条件の検討

那須赤十字病院　　中澤　佑介

8　当院における全身外傷 CT プロトコールの検討

武蔵野赤十字病院　　齊藤　大輝

9　ASSET における展開エラー発生条件の検討

武蔵野赤十字病院　　東　大樹

10　3D-ASL の活用と展望

日本赤十字社医療センター　　松本　ジョエル

10：50　休憩

11：00　次回当番病院挨拶　　さいたま赤十字病院

11：30　閉会式

日本赤十字社診療放射線技師会

第8回中部ブロック業務研修会 開催報告

当番病院 長野赤十字病院

例年ですとまだまだ暑い日が続く9月ではありますが、今年は比較的過ごしやすい気候に恵まれ、前日までの雨模様もすっかり晴れ渡り、長野市において第8回中部ブロック業務研修会を平成29年9月9日（土）・10日（日）の2日間にわたり開催いたしました。

準備の遅れなどがあり、会員の皆様には大変なご迷惑をおかけしたことと思いますが、中部ブロック赤十字病院から会員65 名の参加を得て、開催にこぎつくことができました。

1日目は、「救急外来で放射線技師に期待すること」と長野赤十字病院第一救急部副部長 山川 耕司先生に実症例を交えてお話しいただきました。また、「働きやすい労働環境を考える」で大宝労務安全研究所所長の大田吉宝先生からお話をいただきましたが、普段あまり意識しない労働問題について考える機会が持てたと思います。他に会員発表5 題と分科会にて各モダリティで情報交換を行いましたが、とても活発な意見交換となり時間不足で残念な事態となりました。是非こうした機会が増えれば、施設間の交流も進み、有意義なネットワークが築けるのではないでしょうか?

2日目は.今回初の試みとして、日本赤十字社診療放射線技師会本部より講師の先生をお迎えし、原子力災害における赤十字社の役割などを講演していただきました。今後の新たな取り組みを垣間見ることができましたが、実際の対応を考えると不安や疑問がわいてきます。最後は診療放射線技師の教育について意見交換を行いました。結論が出る問題でもなく、施設によって対応が異なる場面も多いと思います。事前のアンケート調査も行いましたが、自施設に帰って何かしら改善のきっかけになれば幸いと思います。

会員各位のご協力により、無事閉会となりました。甚だ簡単ではありますが、開催報告をさせていただくとともに、皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

報告　放射線科部技師長　大塚 亨

長野赤十字病院全景

日本赤十字社診療放射線技師会
第8回中部ブロック業務研修会

日本赤十字社診療放射線技師会

第8回中部ブロック業務研修会

開催日　　平成29年9月9日（土）13：00〜10日（日）13：00
会　場　　長野赤十字病院 第二研修ホール

【プログラム】
9月9日（土）
12：30 受付
13：00 開会式
当番病院挨拶　　長野赤十字病院　　放射線科部技師長　　大塚 亨
開催施設代表者挨拶　　長野赤十字病院　　院長　　吉岡 二郎
主催者挨拶　　日本赤十字社診療放射線技師会
中部ブロック理事　　茅野 充治（安曇野赤十字病院）
来賓挨拶　　日本赤十字社診療放射線技師会
会長　　安彦 茂（仙台赤十字病院）

13：30　講演会　　座長 室賀 浩二（長野赤十字病院）
「救急外来で放射線技師に期待すること」
講師　長野赤十字病院第一救急　部副部長　山川 耕司先生

14：30　演題発表　　座長 山城 晶弘（長野赤十字病院）
1．新人教育プログラムの再構築
長野赤十字病院　　岡村 佳奈
2．放射線検査におけるパニック値の設定
名古屋第二赤十字病院　　有賀 英司
3．当院における前立腺MRI 検査の適正化
金沢赤十字病院　　高平 義之
4．TSE-DIXON 法における脂肪ファントム成分の影響
長野赤十字病院 高林 融
5．つなぎ目照射における最適なMLC の配置について
伊勢赤十字病院　　岩城 健悟

15：30　講演会　　座長 大塚 亨（長野赤十字病院）
「働きやすい労働環境を考える」
労働における法的裏付けを学んでみましょう
講師　大宝労務安全研究所　所長　大田 吉宝先生（社会保険労務士）

16：30　　分科会（各モダリティ）および 職場責任者会議

職場責任者会議

放射線治療　　「安定的な放射線治療の提供への取り組み」

MR　　「安全管理（金属・造影剤）」

CT　　「造影CT と教育体制」

核医学　　「SPECT/CT の運用方法」

一般撮影　　「一般撮影を見直してみよう」

17：30 移動

18：30 情報交換会 ホテル信濃路

9月10日(日)

9：00　　講習会　　「原子力災害における診療放射線技師の役割」

内 容 「日本赤十字社の原子力災害対策と診療放射線技師」

「原子力災害に対する行政の体制」

「原子力災害時の救護活動における技師の役割」

講 師 坂井征一郎先生（唐津赤十字病院）

高本研二先生（松山赤十字病院）

駒井一洋先生（名古屋第二赤十字病院）

10：00　　討論会　　司会 大塚 亨（長野赤十字病院）

「診療放射線技師の教育について考えてみましょう」

・業務拡大に伴う統一講習会

・臨床実習生の教育

・新人教育 等

12：30 閉会式

主催者挨拶 日本赤十字社診療放射線技師会

中部ブロック理事 茅野 充治（安曇野赤十字病院）

次期開催施設挨拶 富山赤十字病院 課長 四十九 一嘉

当番病院挨拶 長野赤十字病院 放射線科部技師長 大塚 亨

記念撮影

平成 30 年 2 月吉日

日本赤十字社診療放射線技師会

高槻赤十字病院 放射線課

第 26 回日本赤十字社診療放射線技師会
近畿ブロック研修会開催報告書

標題の会が、別添プログラムのとおり、開催されましたので報告します。

平成 30 年 2 月 24 日（土）12：00 ～ 25 日（日）12：00　高槻赤十字病院が開催担当施設となり、ホテルメルパルク大阪 ボヌールにおいて開催しました。

今年度から他ブロックの皆様にもご参加を呼び掛ける形式となり、日本赤十字社診療放射線技師会 会長 安彦 茂様、災害医療支援部 講演者　駒井 一洋様をはじめ 7 名の方にご参加いただき、総勢 87 名での開催となりました。

1 日目

【院長挨拶】

【安彦会長 挨拶】

【特別講演】

【会員発表】

【コンセンサスゲーム】

【情報交換会】

会員発表、コンセンサスゲームの間、平成 29 年度 第 2 回近畿ブロック施設代表者会議が、会長にも参加していただき 16 名で行われました。

2 日目

【災害医療支援部講演】

【キヤノンメディカル（株)講演】

国際災害救護、原子力災害救護について、災害医療支援部の皆様に、また、高精細 CT、MRI について、キヤノンメディカル（株)の方に講演していただきました。

日本赤十字社の診療放射線技師であることに感謝し、今後、業務に励むにあったって、多くの仲間がいることを実感でき、有意義な 2 日間を過ごすことが出来たかと思います。

以上

平成 29 年度日本赤十字社診療放射線技師会　中国・四国ブロック研修会　報告書

1. 日時：2017 年 12 月 9 日 14 時～17 時 50 分．10 日 9 時～12 時
2. 会場：松江赤十字病院　講堂
3. 参加者数：50 名
4. 開催概要

【会長講演】20 分

「日本赤十字社診療放射線技師会の現状と課題」

日本赤十字社診療放射線技師会　会長　安彦茂

【災害支援部講演】60 分

「日本赤十字社の原子力災害対策と診療放射線技師」

「原子力災害に対する行政の対策」

「原子力災害時の救護活動における診療放射線技師の役割」

災害支援部　駒井一洋（名古屋第二赤十字病院）

高本研二（松山赤十字病院）

【研修会企画】

「被災施設への放射線部門業務支援について考える」

・基調講演「被災経験施設からの考察」

神戸赤十字病院　浅妻厚

・特別講演「熊本地震病院支援を経験して～支援の連携とマネージメント～

松江赤十字病院　看護師　野津栄子

・シンポジウム

一般撮影から　　高知赤十字病院　小松克也

CT 検査から　　徳島赤十字病院　矢野朋樹

MRI 検査から　　高松赤十字病院　石井寛人

転職経験から　　松江赤十字病院　岩田幸子

・グループワーク（グループディスカッション・成果発表）

【施設見学】　希望者

5. 内容

・　研修会のメインテーマを「被災施設への放射線部門業務支援について考える」とした．
・　日本赤十字グループでのコメディカル部門の災害時病院支援について今後本社と技師会とで推進されることから本テーマを取り上げた．
・　基調講演では、23 年前の阪神淡路大震災での経験に基づいての考察を聴講した．この震災では放射線部門において業務支援が行われたのとの事であり、スタッフの少ない中小規模病院においては発災直後の急性期の業務支援が必要との事であった．
・　特別講演では、東日本大震災と熊本地震で看護師として病院支援に参加された経験を

聴講した．実際の業務や生活環境、派遣にあたっての準備、コーディネータの重要性などの内容であった．

・ シンポジウムでは、はじめに一般撮影・CT・MRI 部門における業務支援の可能性と課題について発表していただいた．装置の違いへの対応、マニュアルの必要性、副作用など緊急時の対応、加えて MRI においては安全性に関する各種運用などが課題との事であった．次に、転職経験から他の施設で業務する事について考察をしていただいた．電子カルテや RIS については本質的に同じであるため、説明を受ければ大きな問題はないのではとの事であった．また装置が同じである場合であっても、細かい撮影法や手技が異なるので注意が必要であり、その場合の対応としてマニュアルが一助になるとの事であった．

・ グループワークは、一班 7 名とし 6 班に分かれあたえられたテーマに沿ってディスカッションを行い、結果を発表していただいた．テーマは、①支援を想定して自施設・自分自身が何を知っておきたいか、何をしておくべきか、②自施設が受援の立場として事前に何をしておくべきか、要望は何か、③施設業務支援体制を構築するにあたり何が必要か、とした．基調講演、特別講演、シンポジウムの内容を発展させ活発な意見が展開された．受援病院の診療体制として支援者が業務を行っている事を周知させておく必要性があるとの意見もあった．また、非常時運用の構築が必要との意見もあった．

6. 所感

・ 全体として共通性のある内容であり、活発な意見交換があった．グループワークでは班構成を年代別としたため、世代ごとの特徴を感じることができた．

・ 今回の研修会の内容が、今後の施設での取り組みや技師会での取り組みに反映されることを願いたい．

報告者　松江赤十字病院　加藤秀之

第１８回日本赤十字社診療放射線技師会九州ブロック研修会を１０月７日、８日の両日、唐津赤十字病院佐野講堂にて､九州ブロッツク９施設４３名の参加の下開催いたしました。

安彦会長、災害支援部駒井理事、松井技師にはお忙しい中、遠方よりご参加いただき感謝申し上げます。安彦会長よりの日本赤十字社診療放射線技師会としてのビジョンをお示しいただきました。

安彦会長　講演

メディカルイラストレーション作品閲覧

災害医療支援部講義　駒井理事

参加者記念撮影

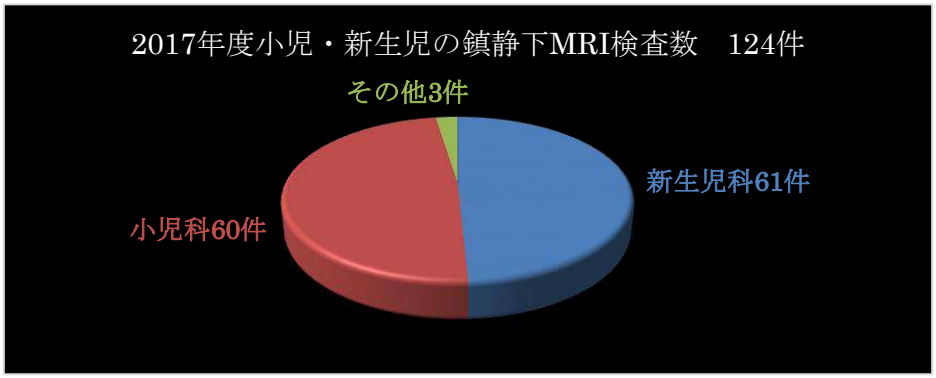
講演、講義していただいた先生方、研究発表していただいた会員の皆様、また、開催施設唐津赤十字病院スタッフの皆様に感謝申し上げます。

当院の鎮静を必要とした小児 MRI 検査について

秋田赤十字病院
放射線診断科部　揚出　泰弘

【はじめに】

当院は小児科や新生児科があり、長時間の静止を必要とする MRI 検査も日常的に依頼される。それらに対して診断に耐え得る画像を提供するため、鎮静を必要とするケースがほとんどで、昨年度 1 年間で鎮静を必要とした小児・新生児 MRI の検査数は 124 件であった。



以前は、鎮静にトリクロリールシロップのみを使用していたが特に小児の場合、睡眠状態になるまでの時間が検査開始時間とうまく合わないケースや、そもそも睡眠状態にならないケースもあるなど不確実性が問題であった。2013 年に日本小児科学会・日本小児麻酔学会・日本小児放射線学会の 3 学会から「MRI 検査時の鎮静に関する共同提言」が出されたのを機に、小児の鎮静方法が再検討され、鎮静から覚醒までの管理体制も見直された。

今回は、当院の鎮静を必要とした小児 MRI 検査についてその体制も含め紹介する。

【検査部位について】

小児科からの依頼部位は、頭部が中心で体幹部そして四肢も少数ながら依頼を受ける。

依頼するきっかけとなる疾患も、てんかん、髄膜炎、発達遅滞、思春期早発、血管腫、二分脊椎、滑膜炎と様々である。

2017 年度鎮静を必要とした小児・新生児 MRI の検査部位

	頭部	頚部	体幹部	脊椎関係	四肢
小児科　60 件	49 件	3 件	3 件	2 件	3 件
新生児科 61 件	59 件		1 件	1 件	
その他　3 件	2 件				1 件

新生児科の場合、検査部位は頭部がほとんどで以下の項目に該当した場合に依頼される。

① 34 週未満で出生した場合

② 頭部超音波検査で異常があった場合

③ 仮死状態で出生した場合

また、検査を行う時期について
① の場合は 38 週から予定日の間
② の場合は退院するまでの間
③ の場合は生後 2 週間
と内容によって検査を依頼する時期も違う。

【鎮静の方法について】
生後間もない新生児科の場合、ほぼ全例トリクロリールシロップのみで鎮静を行う。投与のタイミングは検査開始 1 時間前を目安に MRI 検査室から新生児病棟に連絡し、用量は新生児科医が患児の体重などから計算し決定する。
小児の場合は、5〜10 歳あたりが鎮静を要するかどうか患児によって異なってくる。小児科医が診察時に、検査時の鎮静が必要と判断した場合、検査当日は日帰り入院としてそれぞれ予約する。
鎮静はトリクロリールシロップを新生児科と同じように経口投与し、検査時間になっても睡眠状態にならなかった場合、追加でイソゾールを鎮静担当医が患児の状態を見ながら少量ずつ静注する。また、トリクロリールシロップを経口投与出来なかった場合は、患児の不安を取り除くため少量のミダゾラムを使用した後イソゾールで鎮静する。これら 3 薬全てを同時使用することはない。

【鎮静から検査時の注意点】
小児科の場合病棟にて、鎮静中の誤嚥を起こす危険性を考慮しガイドラインでも推奨されている「2-4-6 ルール(清澄水 2 時間、母乳 4 時間、軽食 6 時間前)」に従い、飲水は 2 時間前までとするなど経口摂取の制限を行なっている。パルスオキシメーターは、常時装着し監視を開始する。
鎮静薬の静注は、検査開始直前に MRI 検査室前にて行っている。緊急時には周りにスタッフが別途数名いることや磁場を気にすることなく対応できることからである。
また、検査の寝台も移動型天板（トローリー）を利用して鎮静中の患児の移動を最小限としている。
患児を台に寝かせる際にも、気道を塞ぐことのない姿勢を確保すると同時に検査部位がアイソセンタになるよう高さの調整も必要である。
検査中は、室内に鎮静担当医が入り直接患児の状態を確認しながら緊急時に備える。また必要に応じて適宜鎮静薬を追加する。患児の監視として MRI 対応パルスオキシメーターと呼吸同期用のベローズも使用する。このベローズを使用することにより、撮像中であっても患児の動きや鎮静の状態を推察できる。経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）は常に 95%以上であること、92%以下になった場合はすぐに呼吸確認と酸素吸入を行う。また、呼吸抑制からくるショックにも注意が必要である。RF 電波による体内の温度上昇について、小児の場合体温調整機能が未発達であることから注意が必要である。検査中の音について最近では各社静音化技術が進んでおり積極的に使用しているが、装置によっては MRA などの描出能に影響が出るので注意が必要である。
新生児科の場合も小児科と同様であるが、静注薬品は使用しないので看護師が MRI 検査室内にて患児の監視を行っている。また緊急時の連絡手段として鎮静担当医に直接繋がる PHS を検査担当技師は受け取る。

【検査後から覚醒まで】
検査終了後、ほぼ鎮静前の状態にまで覚醒が確認できるまで引き続き監視が必要である。
小児科の場合、検査終了後もパルスオキシメーターを常に装着し、鎮静担当医が病棟まで帯同する。
覚醒の確認については小児科医が、①意識　②呼吸状態　③歩行　④飲水（清澄水）の 4 項目を主に確認し、患児の全体的な様子も観察する。
検査終了後完全に覚醒が確認されるまでの時間は、これまでの経験から平均約 2 時間程度を要しているが、患児の状態によっては主治医の判断でそのまま入院を継続している。
新生児科では、24 時間パルスオキシメーター等で監視しており、病棟には新生児科医師が時間外や休日も含め常駐し対応している。

【最後に】
鎮静下で MRI 検査を行う場合、リスクを負って検査を受けている患児に対して、私たち技師は安全を確保しつつ、検査を完結させなくてはならない。その為には検査、画像診断のポイントを押さえ、必要に応じて撮像順やパラメーターの変更を適切に行う必要がある。
「MRI 検査時の鎮静に関する共同提言」により、当院でも鎮静の方法や体制が見直されたが、この提言のうち、「必ずしなければならない 25 項目」をクリアしたに過ぎない。同「強く推奨する 21 項目」では、呼気終末二酸化炭素の監視するカプノメーターの配備や隣接エリアに回復室の確保など構造に関するものもあり、次期装置更新時の課題としたい。

参考文献
MRI 検査時の鎮静に関する共同提言、日本小児科学会・日本小児麻酔学会・日本小児放射線学会
http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20171121_iryouanzen.pdf

小児 CT 検査における体動を考慮したプロトコルと画質

日本赤十字社和歌山医療センター
放射線診断技術第二課　診療放射線技師　小林弘幸

小児 CT 検査に求められることとして、被ばくの最適化、体動を考慮したプロトコルがあげられると考えます。当センターには 2016 年に CANON 社製 Aquilion ONE　GENESIS edition（320 列 CT）が導入されており、主にこちらの装置で小児の検査を行っております。今回は、320 列 CT における、小児撮影の体動を考慮したプロトコルとその画質について検討を行いましたので、紹介させていただきます。

〇頭部 CT 撮影について

当センターの小児頭部 CT 検査では、年齢ごとに撮影線量を設定（Fig.1）し、撮影を行っています。頭部の大きさは年齢ごとに変化するため、固定線量で検査を行う場合、年齢ごとの線量の設定が必要と考えます。年齢区分は、DRLs2015 と同じ区分にしています。

年齢	1y>	1~5y	6~10y
管電圧(kV)	120	120	120
管電流 (mA)	400	450	500
管球回転速度 (rot/sec)	0.6	0.6	0.75
CTDIvol（mGy）	29.9	33.6	46.3
DLP (mGy・cm)	478	537.8	741
DRLs2015			
CTDIvol (mGy)	38	47	60
DLP (mGy・cm)	500	660	850

Fig 1．頭部 CT 撮影プロトコル

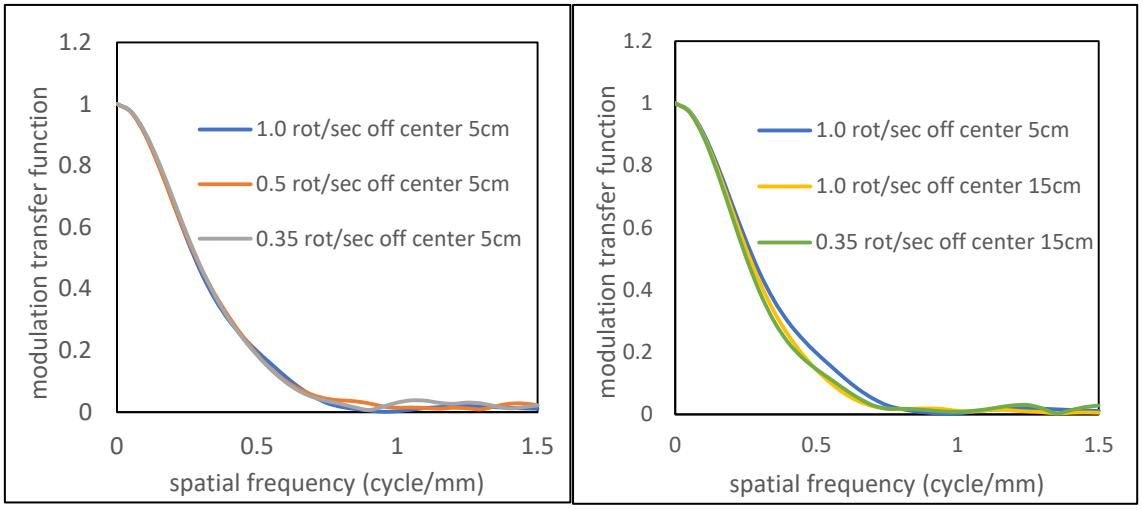
頭部 CT 撮影では、スキャン方法を工夫しています。当院の 320 列 CT は、160mm の広い撮影領域を有しています。その広範囲の撮影（以下ボリュームスキャン）を利用して、小児の頭部を 1 回転で撮影しています。1 回転で全脳を撮影できるため、管球回転速度＝検査時間という事になります。このことにより、撮影時間が短縮され、体動への対応ができると考えます。また、ヘリカルスキャンの際に発生する X 線ビームの重ね合わせがボリュームスキャンでは発生しません。そのためボリュームスキャンは被ばく線量の低減も可能と考えます。

小児頭部 CT において、320 列 CT によるボリュームスキャンは、被ばくと時間分解能に優れているため、有用と考えます。

〇小児体幹部撮影について

小児体幹部 CT 撮影における工夫としては、体動への対応が中心になります。頭部と同様に、短い撮影時間になるように条件を設定しています。

まず、撮影時間に影響を及ぼす因子として、管球回転速度があります。管球回転速度を速くすることで撮影時間は短くなりますが、一般的にスライス面内分解能とトレードオフの関係にあるとされています。ここで 320 列 CT における管球回転速度とオフセンタ位置における MTF への影響を Fig. 2 に示します。



a)　オフセンタ 5 ㎝　　b)　オフセンタ 5 ㎝と 15 ㎝比較

Fig. 2: 管球回転速度と MTF の関係

回転中心のオフセンタ 5 ㎝において、管球回転速度による MTF の変化はありませんでした。またオフセンタ 15 ㎝ではオフセンタ 5 ㎝より、MTF は低下していましたが、管球回転速度による影響は見られませんでした。

このことより、小児のように被写体サイズの小さい場合には、管球回転速度によるスライス面内の分解能の低下は問題とならないことがわかります。しかし、管球回転速度に関係なく回転中心から離れた場所では、MTF が低下しています。よって、被写体を回転中心にポジショニングすることが大切になります。

他に撮影時間にかかわる因子として、Pitch Factor があげられます。Pitch Factor を増加させると寝台移動速度が上がり、結果として撮影時間が短くなります。しかし、体軸方向の分解能の低下を考慮する必要があります。Fig.3 は Pitch Factor と体軸方向の分解能の指標である full width at half maximum（FWHM）と full with at one-tenth of the maximum (FWTM) の関係をまとめたものです。

Pitch Factor	0.638	0.813	1.388
FWHM	1.98	1.95	1.98
FWTM	2.85	2.92	2.81

Fig.3 : Pitch Factor と FWHM、FWTM の関係

設定スライス厚 2 ㎜に対して、Pitch Factor が 1 を超えるようなハイピッチの条件下においても FWHM は約 2mm となっており、実行スライス厚に影響はありませんでした。また、slice sensitivity profile (SSP)の裾野の広がりを表す FWTM も Pitch Factor による影響は見られませんでした。よって今回の検討では、体軸方向の分解能の低下は高速撮影を行っても、問題とならないと考えられます。

また SSP の形状を比較するために、Pitch Factor が異なる条件の SSP を重ねて Fig.4 にまとめています。

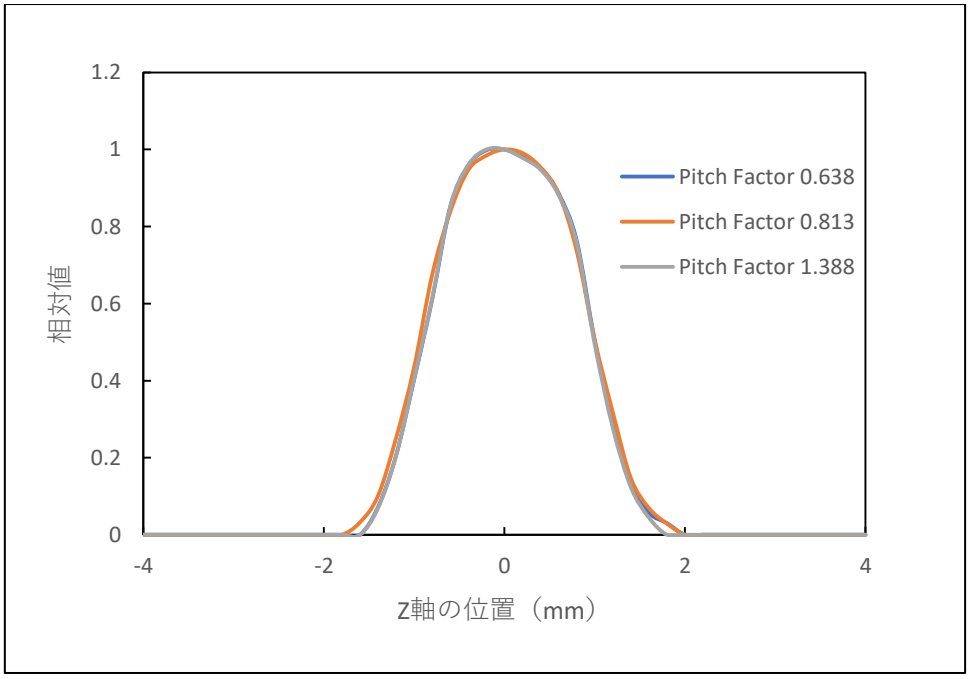


Fig.4 :Pitch Factor が異なる条件の SSP の形状の比較

以上の検討より、当センターの体動を考慮した小児体幹部 CT 検査のプロトコルでは、ビーム幅は 40 mm(0.5 mm×80 列)、管球回転速度を 0.35 rot/s、Pitch Factor を 1.388 としています。

〇まとめ

今回は、当センターの 320 列 CT における体動を考慮した小児 CT 検査のプロトコルと、その画質について紹介させていただきました。体動を制御することが難しい小児 CT 検査において、体動を考慮したプロトコルの作成は必須と考えます。また、装置の性能によって、スライス面内分解能や体軸方向分解能と撮影時間の関係に違いがあると考えられます。そのため、装置ごとに画質と撮影時間の関係について検討する必要があると考えます。

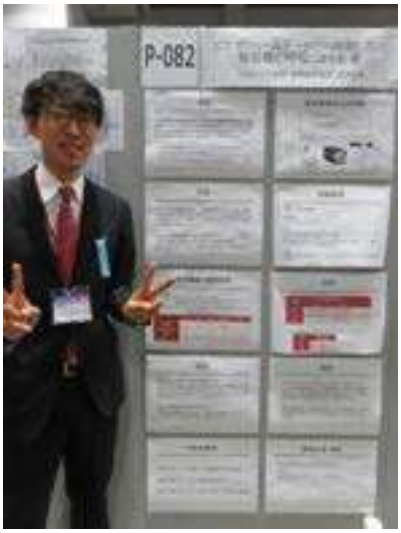
第 53 回日本赤十字社医学会総会報告

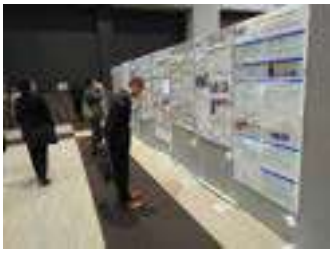
石巻赤十字病院　放射線技術課　画像情報管理係長　鎌田賢治

第 53 回日本赤十字社医学会総会が平成 29 年 10 月 23 日（月）～24 日（火）の 2 日間、宮城県仙台市の仙台国際センターで開催されました。

当院が担当施設でありましたが、例年と違い月曜日と火曜日開催であることと、前日から当日にかけて大型の台風 21 号が宮城県を直撃し交通機関に影響がでたことで、「参加者が少なくなるのでは」と危惧しておりましたが、実際は全国から 2000 名以上もの参加を頂き、非常に活気ある学会となりました。

今回は前日の 10 月 22 日（日）に、日本三景の一つである松島や秋保、鳴子などの観光地や温泉を巡るコンベンションツアー、東日本大震災最大の被災地である石巻を回り当時の状況を振り返る被災地視察プログラム、前日に仙台入りされる参加者には東北の B 級グルメを味わえる前夜祭が開催されました。特に前夜祭では 180 名以上参加され、東北 6 県の地酒・郷土料理に舌鼓を打ち、楽しんで頂けたようです。





学会１日目の午前は放射線技術部門のポスター発表がありました。私は座長を担当させて頂きましたが、皆様、非常に興味深い発表をされておりました。質問や情報交換も活発に行われ、とても良い雰囲気で終えることができました。

午後は他の職種の興味があった発表を拝聴しました。どのセッションも実際の運用に即した発表をされており、非常に参考になる有意義な時間となりました。私自身、日赤医学会に何度か参加させて頂いたことがありますが、本学会は他職種の発表を聞けることが良い所の一つだと思っています。放射線技術関連の学会、勉強会に参加することは多々ありますが、なかなか他職種の学会等に参加することは多くありません。他職種の文化に触れるチャンスでもあり、いつもと違った刺激を受けています。

また１日目の午後には特別講演Ｉとして、自然写真家の高砂淳二氏より「夜の虹との出会い」と題してご講演頂きました。高砂氏はこれまで 90 カ国以上の国を訪れ、海の中から生き物、風景、星空まで地球全体をフィールドに撮影活動を行われています。講演ではハワイでの夜の虹との出会い、ハワイアンに伝わる知恵を写真とともにお話頂き、綺麗な写真に癒されながらも生命の尊さについて改めて考えさせられました。

その後、特別講演Ⅱとして株式会社ヴィジョナリージャパン代表の鎌田洋氏より「～ディズニーからの贈り物～『ありがとうの数だけ幸せになれる』」と題してご講演を頂きました。鎌田氏は「ディズニー　ありがとうの神様が教えてくれたこと」等の著者で有名であります。ディズニーの夜の掃除から学んだディズニー哲学やディズニーの教育プログラムをユーモアあふれるトークでお話頂きました。自らの仕事への誇りを持つことの大事さを再認識させられた講演でした。

１日目の終わりには恒例の「医療人の集い」が行われました。私はあいにく参加できませんでしたが、伊達武将隊の演技や皆様ご存知の牛タンや笹かまをはじめ、フカヒレ、サンマ、牡蠣、ホヤなどの三陸の海の幸や、日本屈指の米どころ東北の、「ササニシキ」や「ひとめぼれ」などの美味しいお米、日本酒が振舞われたようです。それにしても圧巻の日本酒の種類！！不参加が悔やまれます。夜には台風も過ぎ去り、仙台の夜の街を満喫して頂いたのではないでしょうか。

２日目は放射線技術部門Ⅰ、Ⅱの口演発表がありました。１日目のポスター発表に引き続き、皆さん様々な視点から研究、評価されており非常に勉強となりました。多くの意見交換がされ、活気あるセッションとなっていました。

大型台風 21 号が直撃し波乱の幕開けとなった今回の日本赤十字医学会総会でしたが、前日の被災地視察プログラム、前夜祭を含め充実した 3 日間となりました。

次回は中部ブロックの名古屋第一赤十字病院が御担当となります。関係皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

各ブロック研修会など

平成 30 年度

日本赤十字社診療放射線技師会　北海道地区会
第 28 回総会並びに業務研修会　日程表

開催日時　：　平成 30 年 9 月 29 日（土）　12:00 から
　　平成 30 年 9 月 30 日（日）　12:00 まで
開催場所　：　富士フィルム札幌ビル 2 階
　　札幌市中央区大通西 6 丁目 1

第 1 日目　平成 30 年 9 月 29 日（土曜日）

12:00　～　12:40　　受付・参加登録

12:45　～　14:30　　会員研究発表

座長・・・釧路赤十字病院　　熊谷 敬広
北見赤十字病院　　毛利 俊朗

（１）トモシンセシス撮影の運用について
伊達赤十字病院　○豆田 幸映、千葉 真貴子
渋谷 こずえ、高橋 沙織

（２）Ｘ線ＣＴ検査室における散乱線線量分布と適切な放射線防護の検討
北見赤十字病院　○越智 啓介、加藤 紘充
樽見 悠也、毛利 俊朗

（３）内視鏡検査におけるＸ線ＴＶ装置用管球プロテクタの有用性の検討
旭川赤十字病院　○福屋 香菜子、東堂 剛三

（４）全人工膝関節形成術後における脛骨前縁を基準にした単純Ｘ線正面撮影方法の検討
旭川赤十字病院　○大阪 麻耶、豊田 宏典

（５）冠動脈ＣＴにおける非石灰化プラークによる狭窄病変検出精度の検討
旭川赤十字病院　○近藤 悠太

（６）肝動脈化学塞栓療法に用いた EmboGuide の描出について
旭川赤十字病院　○長尾 圭介

（７）当院の Ba 誤嚥時の対応と誤嚥時の対策
釧路赤十字病院　○佐藤 百合子

14:40　～　15:40　　特別講演

座長・・・旭川赤十字病院　　市川　仁

「国際救援活動における診療放射線技師の役割と現状」

日本赤十字社和歌山医療センター　口井　信孝　様

座長　　市川（旭川）

特別講演　　口井様

15:50　～　16:50　　特別講演

座長・・・釧路赤十字病院　　工藤 武志

「東日本大震災の経験」

石巻赤十字病院　及川　順一　様

特別講演　　及川様

17:00　～　　挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会　　会長　　安彦様

17:10　～　　集合写真撮影

17:10　～　　北海道地区会　総会

19:00　～　　情報交換会

第 2 日目　平成 30 年 9 月 30 日（日曜日）

9:00　～　9:15　　受付

9:30　～　11:00　　指定演題

座長・・・・・釧路赤十字病院　　多津美　敦

技術情報交流『災害時における放射線科（病院）の対応について』各施設の報告

11:10　～　11:40　　報告

座長・・・・・伊達赤十字病院　　山内 修司

日本赤十字社診療放射線技師学術総会　報告

北見赤十字病院　相澤　幹也

挨拶　　安彦会長

報告　　相澤（北見）

～　12:00　閉会

会員研究発表・抄録集

座長　・・・・・・・・　釧路赤十字病院　　熊谷　敬広

北見赤十字病院　　毛利　俊朗

（１）トモシンセシス撮影の運用について

伊達赤十字病院　　○豆田　幸映

当院では全ての受診者に乳房トモシンセシス撮影を行なっている。トモシンセシス撮影は、圧迫された乳房を短時間にスキャンし複数の角度で画像収集する３次元撮影技術である。この技術により２次元マンモグラフィでは観察が困難だった組織を軽減、または除去できる。
医師や技師は情報量が多くなることで読影の補助となっており必要性を感じているが、従来のマンモグラフィ撮影に追加して撮影するため、受診者にとって圧迫時間や被ばく線量が増大していることが懸念点として挙げられる。そこで今後のトモシンセシス撮影の運用を考えるため受診者にアンケートを実施したので結果、問題点等を報告する。
【演題発表の意義、新しい点など】
　マンモグラフィ検査におけるトモシンセシス撮影の有用性について検証した。

（２）X 線 CT 検査室における散乱線線量分布と適切な放射線防護の検討

北見赤十字病院　　○越智　啓介　　加藤　紘充　　樽見　悠也　　毛利　俊朗

【背景】
　CT 検査が医療被ばくに占める割合は多く、全 X 線診療行為による患者集団線量の 34%を占めている。この CT 検査中に介助者が検査室内に留まり作業を行うことがあり、CT 装置が発生する X 線による介助者への散乱線被ばくが問題となっている。
【目的】
　X 線 CT 室内における散乱線を測定し、適切な放射線防護方法を検討する。
【結果】
　散乱線測定の結果、最も散乱線量が低い位置はガントリの左右側面であった。ついでガントリに密着した場合も線量が少なかった。
【演題発表の意義、新しい点など】
X 線 CT 室内の散乱線線量分布を可視化することにより、介助者が適切な防護方法をとることが可能となった。

（３）内視鏡検査における X 線 TV 装置用管球プロテクタの有用性の検討

旭川赤十字病院　　○福屋 香菜子　　東堂 剛三

【目的】X 線 TV 装置（TV 装置）において管球プロテクタの有無による空間線量を測定し空間線量分布の変化を把握することを目的とした。また水晶体防護メガネによって被ばく線量はどの程度低減可能か検討した。
【方法】空間線量は、TV 装置にアクリルファントムを置き Piranha を用いて測定し、管球プロテクタの有無それぞれで空間線量分布図を得た。また内視鏡スタッフの立ち位置で水晶体に相当する高さの、防護メガネの有無で被ばく線量を測定した。
【結語】管球プロテクタの有無による空間線量分布の変化が把握できた。また防護メガネによる被ばく線量低減率が得られた。これによりスタッフの立ち位置を見直し、被ばく低減に有用であることが示唆された。
【演題発表の意義、新しい点など】
X 線 TV 装置用の管球プロテクタの有無による、TV 室の空間線量分布を得ることで、管球プロテクタの有用性を知り、内視鏡スタッフの被ばく線量を低減することに役立たせるために測定を行いました。
また、水晶体防護メガネは、最近ほとんどの内視鏡スタッフが身に着けるようになったため、被ばく線量の低減率を検討することにしました。

（４）全人工膝関節形成術後における脛骨前縁を基準にした単純 X 線正面位撮影方法の検討

旭川赤十字病院　　〇大坂　麻耶　　豊田　宏典

近年，変形性膝関節症の罹患者が増加している．その治療の一つに，全人工膝関節形成術が施行され ,単純 X 線画像を用いて術後の経過状態が評価されている.
一方，術後の X 線撮影における学術検討は少なく，当院においても撮影方法が確立されていない．技師によって撮影方法が異なるため，再現性が低い．また，一般的な膝関節撮影のポジショニングで撮影されることもあり，正確なコンポーネント正面像が描出されないことがある．そのため，これまでの X 線画像では，術後の経過状態の評価は難しい．そこで，当院の術後の単純 X 線正面位撮影の方法を確立するため，脛骨前縁をカセッテに対して水平にしたときの最適な X 線入射角度を検討した。
【演題発表の意義、新しい点など】
これまで，全人工膝関節形成術後における膝関節の撮影方法に関する学術検討が少なく，教科書に撮影方法が記載されていないことが多い．当院においても撮影方法が確立されていない．今回，脛骨前縁を基準にした当院の術後撮影方法を確立することを目的として，脛骨前縁をカセッテに対して水平にしたときの最適な X 線入射角度を検討した．ただし，膝関節撮影の基準は脛骨軸であることが多いが，技師にとって，脛骨前縁のほうが脛骨軸に比べてポジショニング時に客観的に観察しやすいことから，脛骨前縁を選んだ.

（５）冠動脈ＣＴにおける非石灰化プラークによる狭窄病変検出精度の検討

旭川赤十字病院　　○近藤悠太

【目的】

非石灰化プラークによる狭窄病変の評価における冠動脈ＣＴの精度について検討した。

【方法】

平成 29 年度に当院で行われた冠動脈ＣＴの結果からＣＡＧを実施した患者のうち,非石灰化プラークによる狭窄が認められた症例を対象に,ＣＡＧ上 50%以上の狭窄を有意なものとし,冠動脈ＣＴの結果と比較検討した。

【結果】

冠動脈ＣＴによる所見とＣＡＧの結果から,冠動脈ＣＴにおける非石灰化プラークによる 50%以上の狭窄病変に対する検出精度は感度 93%,特異度 98%,陽性的中率 68%,陰性的中率 99%であった。

【演題発表の意義、新しい点など】

（６）肝動脈化学塞栓療法に用いた EmboGuide の描出について

旭川赤十字病院　　○長尾　圭介

TACE（肝動脈化学塞栓術）の際、腫瘤にかかわる栄養血管候補の抽出をサポートし、治療戦略のシミュレーションをする補助機能である「EmboGuide（エンボガイド)」の描出能について肝炎、肝硬変分類、腫瘍サイズなど各種項目について比較検討する

【演題発表の意義、新しい点など】

EmboGuide（エンボガイド）機能は実際の腫瘍の目的栄養血管を正確に描出しているかの評価をした文献はまだない。背景の各種項目と比較することで、過小または過大評価の傾向があるのかを検討する。

（７）当院の Ba 誤嚥時の対応と誤嚥の対策

釧路赤十字病院　　○佐藤　百合子

粘稠度の高いバリウムを使用する上部消化管の造影検査を行うにあたり、誤嚥に遭遇することがある。誤嚥が起きた際には迅速で適確な措置を施し、また誤嚥しやすい高齢の患者に対しては事前に対策を立てておくことが望ましい。

当院ではこれまで誤嚥が起きると特別な措置は取らず胸部撮影を行い、医師に報告するのみであったが、医療安全の視点から誤嚥が起きたらその場でハッフィングを行う方針が設けられた。

４月からバリウム検査を担当しおよそ４００件の検査を経験させていただいたが、これまでに３例の誤嚥に遭遇した。その時の状況を交えながら当院の誤嚥時の対応と対策を報告したい。

【演題発表の意義、新しい点など】

バリウム誤嚥は措置が遅れると誤嚥性肺炎など重篤な状態を引き起こすおそれがあるので、適切な対応が求められる。是非この発表を機会に他院様の事例なども参考にして、今後の検査に活かしたい。

平成30年度　日本赤十字社診療放射線技師会　東北ブロック研修会開催報告

東北ブロック理事　秋田赤十字病院　三浦　司

平成30年10月13日（土）13時30分より、仙台駅前アエル6F　「中小企業活性化センター／セミナールーム（２）Ａ」において平成30年度日本赤十字社診療放射線技師会東北ブロック研修会が開催されました。東北5県6施設及び講師を含め総勢44名の参加者であった。

今回は特別講演として、昨年度に引き続き日本赤十字社診療放射線技師会、災害医療支援部理事である駒井理事及び災害医療支援部及川氏に講演を頂きました。ランダムに分けられたグループワークを実施。各施設の考えをまとめた上で災害時の現場ではどのように対応・対処した方がよいのか？地域間の連携は？日赤本社の意向としては？など、駒井理事の講演を通して、昨今の災害における診療放射線技師としての役割について考えさせられる良い機会となった。

また、一般演題は7題、会員の研究発表があり、我々日頃の業務において大変参考になる演題だった。

教育講演では、演題 ：「CT診断の新しい流れ～超高精細CT・低線量・診断支援～」講師：キヤノンメディカルシステムズ株式会社 研究開発センター 臨床アプリ研究担当 島　総　先生にお願いした。特にＣＴへのＡＩ導入、日放技でも行っている医師読影補助等は、既にＣＴ装置本体でも可能な時代へと突入し実現は時間の問題である。逆に我々放射線技師の職域が危ぶまれることに繋がるのではと、不安も感じられ大変興味深い内容であった。座長を始め講師の皆様、大変お疲れ様でした。この場をお借りしてお礼申し上げます。

開催日：平成30年10月13日（土）13：00～17：30
会　場：仙台駅前アエル5F　「中小企業活性化センター／セミナールーム（２）Ａ」
【プログラム】

総合司会　秋田赤十字病院　三浦 司

12:30　会場・受付開始
13:00　代表者会議
13:25　開会の挨拶　秋田赤十字病院　三浦　司

13:30　特別講義1　座長　石巻赤十字病院　及川　順一
「災害医療概論」
14:00　特別講義2（グループワーク）
「災害時の診療放射線技師の役割」　日本赤十字社診療放射線技師会災害医療支援部
名古屋第二赤十字病院　駒井　一洋
石巻赤十字病院　及川　林

15:00 休憩（10分）

15:10 一般演題発表　（質疑応答各10分）　座長　秋田赤十字病院　照井　和幸

１）泌尿器科医の水晶体の被ばく線量の測定	仙台赤十字病院	笹　優子
２）3D-DSA,3D-CTAによる脳動脈瘤の計測	八戸赤十字病院	小村　俊平
３）放射線技師の急変対応時におけるBVM使用への取り組み	石巻赤十字病院	佐藤　光一
４）Ｘ線撮影の写損管理「ASSISTA Management」の使用経験	秋田赤十字病院	冨樫　亜紀
５）当院成人頭部単純CT検査におけるCTDIvol、DLPとDRLの比較	福島赤十字病院	玉根　勇樹
６）当院における造影剤管理の見直しについて	福島赤十字病院	阿部　直人
７）当院の機器整備・業務・新人教育状況について	盛岡赤十字病院	川原　猛

16:20　休憩（10 分）

16：30　教育講演　　座長　秋田赤十字病院　　三浦　　司

演題 ：「CT 診断の新しい流れ～超高精細 CT・低線量・診断支援～」

講師：キヤノンメディカルシステムズ株式会社 研究開発センター 臨床アプリ研究担当

津島　総　先生

17:30　集合写真撮影・閉会

18:15　情報交換会

2018.10.13

2018.10.13

第31回日本赤十字社放射線技師会東部ブロック研修会　開催報告

開催担当病院　さいたま赤十字病院

平成３０年１１月１７日（土）～１８日（日）の２日間の日程でさいたま赤十字病院の多目的ホールにおいて第３１回日本赤十字社放射線技師会東部ブロック研修会を開催しました。今回の研修会では東部ブロック赤十字病院より１９施設９３名の参加がありました。

１日目の研修は、特別講演Ｉとして、「漫画ラジエーションハウスが教えてくれたこと～多くの方々との出会いと応援に支えられて～」と題して、同作品の監修に携わった東京大学院　総合文化研究科　進化認知科学研究センターに在籍の五月女康作先生にご講演していただきました。診療放射線技師という仕事を世の中に知ってもらう手段として漫画という媒体を選択した経緯をお話しして頂き、作中に描かれている“大切な事は目に見えないことを見ようとすることが大事なんだ”の名言が皆の心に響いていました。

特別講演Ⅱとして兵庫県災害医療センターの中田正明先生に「災害医療概論」を、石巻赤十字病院の及川林（しげる）先生に「災害時の診療放射線技師の役割と現状」についてご講演していただき、グループワーキングとともに行いました。

技術講演として埼玉県立小児医療センター　副技師長の田中宏先生に「埼玉県病院局における病院立ち上げの経験」について他部署との協働作業等をお話し頂きました。

情報交換会では８１名（１９施設）の参加があり、各世代に分かれ着席し施設紹介を交えそれぞれ意見交換を行ないました。

２日目の研修に、教育講演として当院救急科副部長である八坂剛一先生より「北海道胆振東部地震救護班の報告および日赤災害対応について」ご講演して頂き、DMAT として派遣された経緯や必要性、災害当時の被災者の心情やその中への入り方について話して頂き、今後現地で人員確保できなかった場合の診療放射線技師の必要性を感じました。

基調講演として当院診療放射線技師安全管理係長の北山早苗先生より「法令改正後の教育訓練」について今後どういった対応を求められるのかを話して頂き、今後に関わることで非常に興味深い内容でした。

一般演題発表として CT、MRI に関して５題、一般撮影・血管造影・医療安全に関して５題、治療・核医学に関して２題と様々な分野、新しい試みについて行われました。

また大会テーマでもある“自然災害に負けない病院づくり”から災害時用ポータブル撮影装置の機器展示も行いました。同機器の使用経験等含めた一般演題発表もあり災害時の一助になったと思います。

以上の内容で研修会を終えました。

安彦会長はじめ、各病院の皆様のご協力の下、無事に開催を終えましたことを感謝いたします。

大会長挨拶

病院長挨拶

特別講演Ⅱ〇〇先生とｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｷﾝｸﾞ

ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｷﾝｸﾞ

技術講演　田中宏様

機器展示（受付）

教育講演　八坂剛一先生

質疑応答

■　講演一覧表

■講演目次（1 日目）

■　特別講演（Ⅰ）P6　（Ⅱ）P7

【13:20～14:10】

座長：さいたま赤十字病院　寺澤 和晶

『漫画ラジエーションハウスが教えてくれたこと
～多くの方々との出会いと応援に支えられて～』

東京大学大学院　五月女 康作

【14:25～15:45】

座長：さいたま赤十字病院　高橋 譲

『災害医療概論』

兵庫県災害医療センター　田中 正明

『災害時の診療放射線技師の役割と現状』

石巻赤十字病院　及川 林

■講演目次（1 日目）

■　技術講演　P8

【16:00～17:00】

座長：さいたま赤十字病院　尾形 智幸

『埼玉県病院局における病院立上げの経験』

埼玉県立小児医療センター　田中 宏

■講演目次（2 日目）

■　教育講演　P9

【8:50～9:50】

座長：さいたま赤十字病院　森田 寿

『北海道胆振東部地震救護班の報告および日赤災害対応について』

さいたま赤十字病院　八坂 剛一

■講演目次（2 日目）

■　基調講演　P10

【11:50～12:10】

座長：さいたま赤十字病院　鈴木 裕之　田中 里奈

『放射線障害防止法の改正の概要』

さいたま赤十字病院　北山 早苗

（敬称略）

■　演題一覧表

■一般演題目次（2 日目）

■　セッション（Ⅰ）　CT・MRI　P17-21

【9:50～10:40】

座長：さいたま赤十字病院　　大河原 侑司　池野 裕太

１．体位変換を利用した尿路系病変描出能向上の試み　第 1 報
小川赤十字病院　田中 達也

２．体位変換を利用した尿路系病変描出能向上の試み　第 2 報
小川赤十字病院　清水 美季

３．頸部動脈狭窄症の CAS 術前評価における MRI TrueFisp シネ撮像の有用性
大森赤十字病院　水石 岳志

４．3D 撮像条件統一化に向けての基礎検討
長岡赤十字病院　佐野 友樹

５．医療安全と質の向上
深谷赤十字病院　齋藤 幸夫

■一般演題目次（2 日目）

■　セッション（Ⅱ）一般・AG・その他　P22-26

【10:50～11:40】

座長：さいたま赤十字病院　　塚田 将司　小此木 俊

６．X 線 TV 室における感染予防の取り組み
深谷赤十字病院　柏瀬 義倫

７．人工関節置換術後における膝蓋骨側面像の新規撮影法の検討
大森赤十字病院　坂根 吉由暉

８．超低線量撮影を利用した TKA 後膝蓋骨側面像の新規撮影方法の検討
大森赤十字病院　小田 幹也

９．当院におけるＸ線防護衣管理の取り組み～職員を放射線被曝から守る～
足利赤十字病院　大川 公利

１０．災害時を想定した可搬型Ｘ線装置の出力評価および駆動性能
さいたま赤十字病院　舘沼 理保奈

■一般演題目次（2 日目）

■　セッション（Ⅲ）治療・RI　P27-28

【12:10～12:30】

座長：さいたま赤十字病院　　鈴木 裕之　田中 里奈

１１．LMEGP コリメータを用いた脳血流シンチグラフィとドパミントランスポーシンチグラフィにおける有用性
日本赤十字社医療センター　臼井 謙太

１２．ダットシンチ検査時のインシデント事例分析に FMEA を用いた一例
足利赤十字病院　長瀬 光臣

日本赤十字社診療放射線技師会

第９回中部ブロック業務研修会

開　催　日　：平成 30 年 9 月 8 日（土）13：00～9 月 9 日（日）12：30

開 催 場 所 ：富山赤十字病院看護学校 3 階講堂

情報交換会：カナルパークホテル 2F　大宴会場 鳳凰西の間　18:30～

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

第９回中部ブロック業務研修会　プログラム

9月8日（土）

12：30　受付

13：00　開会式　　総合司会　長井　千夏子（富山赤十字病院）

開催宣言

富山赤十字病院放射線技術課技師長　四十九一嘉

開催施設代表者挨拶

富山赤十字病院　院長　平岩　善雄

主催者挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会　中部ブロック理事　茅野　充治

来賓挨拶

日本赤十字社診療放射線技師会　会長　安彦　茂

13：30　特別講演「緩和ケアチームの現況

富山赤十字病院　呼吸器外科部長　小林　孝一郎先生

座長　四十九　一嘉（富山赤十字病院）

―　休憩(15分)　―

14：45　基調講演①「チーム医療の現状と日赤技師会の取り組み」

日本赤十字社診療放射線技師会常任理事　林　奈緒子先生（伊勢赤十字病院）

座長　廣瀬　正（富山赤十字病院）

15：15　基調講演②「学生へのチーム教育」

新潟大学　医学部保健学科　長谷川　晃先生

座長　田町　明男（富山赤十字病院）

15：45　シンポジウム「放射線技師が目指すチーム医療」

シンポジスト　　裾野　岐阜　福井　諏訪　富山

座長　廣瀬　正（富山赤十字病院）

16：30　本部講演「国内災害」

日本赤十字社診療放射線技師会常任理事　本部役員

18：00　移動

18：30　情報交換会　　カナルパークホテル 2F　大宴会場 鳳凰西の間

第９回中部ブロック業務研修会　プログラム

9月9日（日）

9：00　分科会（各モダリティ）および　職場代表者・責任者会議

職場代表者・責任者会議：討議室

分科会（放射線治療・MRI・CT・一般撮影・マンモグラフィー）：各撮影室

10：00　メーカー講演（4社）

・テラリコン・インコーポレイテッド（10分）

「演者」内海　健先生

「演題」画像手術支援加算の現状

・株式会社レクシー（15分）

「演者」浦野　哲朗先生

「演題」整形外科領域における3D術前計画の実際

・富士フイルムメディカル株式会社（15分）

「演者」川口　裕之先生

「演題」Synapse VINCENTにおける術前プランニングの支援画像

・キヤノンライフケアソリューションズ株式会社（10分）

「演者」大倉　信二先生

「演題」3Dプリンタの利活用について

座長　黒畑　智之（富山赤十字病院）

11：00　デモ機　実演

12：00　記念撮影

12：30　解散

平成30年度日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック研修会　開催報告

西関　剛（長浜赤十字病院）

去る2月23日から24日にかけて、今回で27回目を数える近畿ブロック研修会を長浜赤十字病院当番にて開催いたしました。毎年この時期は雪に見舞われることが多く、参加者の足元を気にしておりましたが、当日は晴れの天気に恵まれ無事に開催することができました。

開会式、ランチョンセミナー形式の基調講演の後、特別講演がおこなわれました。まず理学療法士の堀口幸二先生に野球を中心として「スポーツ外傷のケア」と題して講演いただき、特別講演.2では奈良県立医科大学附属病院の安藤先生に関節リウマチについて概論から撮影法まで詳しく解説いただきました。

2日目は「BCP（事業継続計画）各施設の現状」と題し、近畿の5つの施設を抜粋し会員さまからBCPに関する各施設での取り組みや課題などを発表いただきました。その後、国内災害支援部の中田さんと嶋田さんから災害時に放射線技師がどのように活動することができるのかを、グループ討議を交え講演いただきました。

今回は会員による学術発表を取りやめましたので講演尽くしの研修会となりましたが、参加された皆さまにとって何かの糧になれば幸いです。

最後になりましたがご講演いただいた先生方や、ご参加いただいた会員の皆さまにスタッフを代表して感謝申し上げます。

2月23日（土）　於：長浜赤十字病院　2号館5階　大会議室

12:00　開会式　司会　橋本　清和（長浜赤十字病院）

開会挨拶

長浜赤十字病院放射線科部　技師長　松井　久男

開会施設代表者挨拶

長浜赤十字病院　院長　楠井　隆

オリエンテーション　担当　西関　剛（長浜赤十字病院）

12：20　基調講演　「これからの放射線医療被ばくについて」

富士フイルムメディカル株式会社

座長　奥出　隆夫（長浜赤十字病院）

◎　施設代表者会議　13：20～16：30　◎　会議室1

13：20　特別講演.1　「スポーツ外傷のケア」

堤整形外科　リハビリテーション科　科長　堀口　幸二　先生

座長　西関　剛（長浜赤十字病院）

15：00　特別講演.2　「関節リュウマチのＸ線撮影に求める画像とは」
奈良県立医科大学附属病院　中央放射線部　副技師長　安藤　英次　先生
座長　藤原　将洋（長浜赤十字病院）

16：40　オリエンテーション　担当　西関　剛（長浜赤十字病院）

18：00　情報交換会　北ビワコホテル グラツィエ 2階　「アレーナ」

2月24日（日）　於：北ビワコホテル グラツィエ 2階　「アレーナ」

9：00　シンポジウム　「BCP（事業継続計画）各施設の現状」
シンポジスト　― 姫路、和歌山、京都第一、大津、高槻 ―
座長　松井　久男（長浜赤十字病院）

10：00　本部講演　「災害医療概論と災害時の診療放射線技師の役割」
日本赤十字社診療放射線技師会　国内災害支援部
中田　正明（神戸赤十字病院）、嶋田　祐子（大阪赤十字病院）
座長　岩島　基樹（長浜赤十字病院）

12：20　ランチョンセミナー
「放射線科で発生する様々なデータの集約とその利用について」
株式会社ファインデックス
座長　福田　哲也（長浜赤十字病院）

13:10　閉会式　司会　橋本　清和（長浜赤十字病院）
次回開催施設挨拶
神戸赤十字病院放射線科部技師長　古東　正宜
閉会挨拶
長浜赤十字病院放射線科部技師長　松井　久男
記念撮影

13：30　解散

全体写真

堀口先生　　安藤先生

会員によるシンポジウム

国内災害支援部による講演

平成30年度　第8回日本赤十字社診療放射線技師会
中国・四国ブロック研修会　開催報告

徳島赤十字病院　　松田克彦

平成31年2月2日（土）・3日（日）の2日間にわたり、徳島赤十字病院西棟会議室において平成30年度　第8回中国・四国ブロック研修会が開催されました。中国・四国地方の15施設から、61名の参加がありました。

１日目は、まず日本赤十字社診療放射線技師会　安彦会長より、技師会の今後の活動について講演をいただきました。その後、災害医療支援部の鳥取赤十字病院　山根様、神戸赤十字病院　中田様より、災害医療概論や災害時における技師の取り組み等について講義していただき、グループワークを交えながら学ぶことができました。さらに特別講演としまして、徳島赤十字病院　医療社会事業課の米田氏に大規模災害における自施設の取り組みを紹介していただきました。

２日目は、若手技師を中心とした会員研究発表が9題、最新技術の情報提供としてメーカー3社に講演をいただきました。閉会後希望者を対象に、新設されたアンギオセンター、PETセンター、放射線治療部門等の見学をしていただきました。

また、開会前には施設代表者会議を開催し、次回開催以降の予定等について話し合われました。

活気溢れる若い会員にも多数参加いただき、施設や年代を超えて交流を深めることができた有意義な研修会であったと思います。ご協力いただきましたすべての皆様に深く感謝致します。

会長講演：日本赤十字社診療放射線技師会　安彦会長

神戸赤十字病院　中田氏

鳥取赤十字病院　山根氏

災害医療支援部企画　グループワークの様子

特別講演：徳島赤十字病院　医療社会事業課　米田氏

会員研究発表

施設見学の様子

平成 30 年度　第 19 回日本赤十字社診療放射線技師会九州ブロック研修会報告

日時：平成 30 年 10 月 20 日(土)　13:00～17:30
　　平成 30 年 10 月 21 日(日)　 9:00～11:40
会場：長崎ブリックホール 3 階 第 1・第 2 会議室
　　原爆資料館(外部会場)
担当：日本赤十字社長崎原爆病院
　　日本赤十字社長崎原爆諫早病院
参加者数：49 名
第 1 日目

仙台赤十字病院の安彦会長の挨拶に始まり、日赤長崎原爆病院院長の平野明善氏に特別講演を行って頂きました。その後災害医療支援部講義とグループワークを鳥取赤十字病院の山根晴一氏と大阪赤十字病院の島田裕子氏に行って頂き、各施設の代表者会議を開催し原爆資料館に場所を移して見学を行い 1 日目を終了しました。

日本赤十字社診療放射線技師会会長挨拶
仙台赤十字病院　安彦　茂氏

特別講演　「原爆と形成外科－形態異常と美－」
日本赤十字社長崎原爆病院　院長　平野　明善氏
放射線障害に関わる話から被爆者の治療から形成外科が発展を遂げた経緯まで非常に興味深い内容で出席者の聞き入る姿が印象的でした。

災害医療支援部　講義
鳥取赤十字病院　山根　晴一氏
阪神大震災発生時の貴重な写真や当時の技師の奮闘などをご講演頂きました。

災害医療支援部　グループワーク
大阪赤十字病院　島田　裕子氏
災害が実際に起きた場合にどのように対処するか
討議を行い、備えを新たにしました。

第 2 日目

会員の研究発表が行われ、活発な質疑応答がなされました。また、教育講演として富士フィルム社の西詰利之氏に DR の最新情報について話していただきました。

1. 上肢の挙上が困難な患者の胸部 CT における
腕の位置の検討
日赤長崎原爆病院　鶴田　祐子氏

2. CT 撮影における VHP と OEM を用いた頭部・
顔面部の被ばく線量と画質検討
福岡赤十字病院　備後　公史氏

3. 大動脈弓部領域における REACT を用いた
black blood 撮影の検討
唐津赤十字病院　立川　圭彦氏

4. 症候性造影剤脳症における ASL

熊本赤十字病院　黒田　洋平氏

5. ブスコパン使用の有無における画像への影響と評価

熊本健康管理センター　浦田　寛行氏

6. 当院における医療従事者の被ばく管理

大分赤十字病院　豊本　隆章氏

教育講演　「DR の最新情報」

富士フィルムメディカル(株)　西詰　利之氏

参加者記念写真

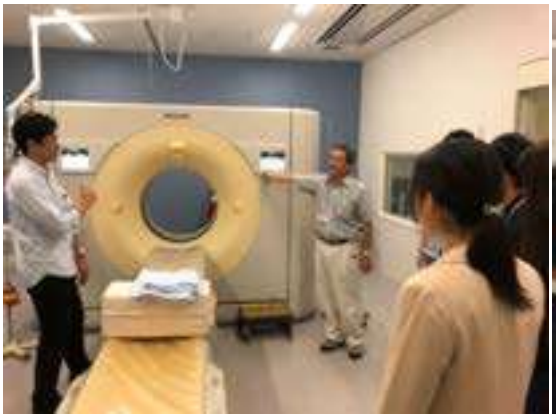
皆様のご協力により滞りなく会を執り行うことができました。ご協力に感謝いたします。

第1回 CT 専門部東部ブロック施設交流会開催

CT 専門部として初めて施設交流会を開催させていただきました。今回会場にさせていただいたさいたま赤十字病院はアクセスも良く、東部ブロックでは参集するのに好適な場所であり、移転後間もないため様々な設備を有しており、今後他の赤十字病院の参考になる最適な場所でありました。出席施設、出席者は10施設、44名と東部ブロックの半数近くの施設にご参加いただきとても有意義な会になりました。

開催内容といたしましては①さいたま赤十字病院放射線科施設見学、②各施設による事前アンケートに対する意見交換、③年代別に分かれての意見交換、④災害時の亜急性期から慢性期における医療業務支援の在り方についての意見交換とそれぞれのテーマを決定しました。

①さいたま赤十字病院放射線科施設見学
施設見学は3グループで行い、一般撮影、アンギオ、CT、MRI、核医学、放射線治療を見学させていただきました。



②各施設による事前アンケートに対する意見交換
各施設から事前に日常業務におけるアンケートを web にて回答いただきました。それを基に成田赤十字病院、日本赤十字社医療センターにてとりまとめ、報告を致しました。（詳細は別紙）その後各出席者から全体に向けてのご挨拶をいただき、アンケートについての内容の意見交換に入りました。
意見交換ではCTにおける施設の機器メーカーに着目点が集まり、機種選定者や、機種の特長や、デメリットなどを主に話し合いました。メーカーから発信されない細かい着目点などより現場に沿った意見が出されました。
造影剤のアンケート結果には後発薬品（ジェネリック）の造影剤の話もあり、各病院での使用経験

などでましたが次回に造影をテーマにもっと深く話す結論に至りました。
そちらに付随して低管電圧撮影、Dual Energy に関しましても GE の装置を使用している施設が主に使用しているといった情報でした。
そのほかの項目に関しては次回以降にテーマを策定し個々に掘り下げた議論をする方向性で締めくくり終了いたしました。

③年代別に分かれての意見交換
ここからは各年代別（新人～2年目、3～10年、11～20年、21年以上）の4グループに分かれグループワーキングとしました。
各年代においての業務上の意見交換をしていただきましたが、各年代であがった話題を報告いたします。
新人、2年目・・・学生から社会人になり苦労していること、業務上での進捗度など
3年～10年・・・勤務ローテーション、職場での役割、新人教育についてなど
11年～20年・・・業務においての認定など技術レベルの評価についてなど
21年以上・・・人事評価の統一についてなど
が主に話し合いにでていた内容でした。各年代とも特色があり、病院規模の大きい小さいにかかわらず各個人が統一した内容でディスカッションできていたためとても有意義な内容でありました。

④災害時の亜急性期から慢性期における医療業務支援の在り方についての意見交換
日本赤十字社放射線技師会では、災害時における診療放射線技師の人的派遣を目指しておりますが、実際に派遣するにはどのような形がよいかをこれも先ほどの年代別での話し合いをしていただきました。
これにおいても各年代から出た意見を報告いたします。
新人、2年目・・・まず派遣されるにあたり新人としての業務の内容が先行しなくてはならないため、派遣へ向けて知識を深めることが重要である。
3～10年・・・派遣にあたり派遣先の立地状況なども把握していないのが現状なためそれに向けて人事交流のシステムが必要である。また CT においては各施設での業務が大幅に異なるため厳しいのではないか。一般撮影などで派遣をまず考えてはどうかとの意見もありました。
11～20年・・・派遣に向けた人事交流システムを作るべきである。また災害時は派遣する側もされる側も同一の撮影できるような日赤プロトコールを作成するのはどうか。
21年以上・・・エキスパートを育てるべきである。どのメーカーでも対応でき、経験豊富なスペシャリストを養成するシステムはどうかとの意見がありました。

出席者の方から開催後のアンケートをとらせていただき次回からの懸案事項をいくつかあげたいと思います。

開催場所について
主に東京、さいたまでの継続が全体の8割でありました。
開催内容について
時間が短かったという意見が多く寄せられており、今後は各項目に絞り開催していきたいと思っております。
また、CT に関しての項目が業務全体であったため次回からは寄せられた意見を基に日常業務の内容に近いテーマで意見交換できたらと思っております。

今回は初めての試みでありましたがこれだけの規模で開催できたことに感謝いたします。次回からはもっと赤十字の特色を生かした会にできるよう努めますので参加をお待ちしています。

マンモグラフィポジショニング研修会　報告書

乳房画像部会　代表世話人　西関剛

去る 10 月 20 日（土)、京都第二赤十字病の乳房撮影室をお借りして、乳房画像部会によるマンモグラフィポジショニング研修会を開催しました。

この企画は、今年 4 月に世話人の顔合わせということで集まった際に「会員さんと顔を合わせての活動ができないか」という発想から突然湧き出しました。

乳房撮影装置のデジタル化、特にフラットパネル化が進む中、診断に寄与する画像の出来栄えはポジショニングの良し悪しが大きく影響を与えます。ポジショニングについては多くの技師さんが講習会や勉強会で学ばれて習得されていますが、時間が経つにつれ自己流に変化していきがちで、中には「このポジショニングで合ってるのかな？」「どうしたらもっと乳腺の後隙を写し出せるかな？」など、悩んでおられる方も多いかと思います。そこでポジショニングを見直す研修会をおこなうこととし、世話人それぞれの知恵と経験を活かして開催することができました。

赤十字技師会のホームページから募集をかけさせていただきましたが、今回は場所が京都ということもあり近畿ブロックの技師さんを中心にご参加いただきました。しかし遠くは岡山からもお越しいただきました。

当日は 14 名の方にご参加いただきましたので実習と講義の 2 班に分け、入れ替わり制で研修会を進めました。講義では乳房の構成から乳がんの発生、乳がん手術の歴史そしてポジショニングの重要性を改めてお話しさせていただきました。実習では、女性講師が中心になり実機を使用したポジショニング講習をおこないました。一般的な講習会ではポジショニング用のベストを使用します。これは非常に良くできているのですが、簡単に伸展するので実乳房のポジショニングとはだいぶ乖離があります。そこで我々は受講生の方にブラトップを着用していただき、実乳房でおこなうこととしました。実乳房での講義については後のアンケートで「不安はあったが教えてもらったことが直ぐに実践できた」など好評を得ました。我々男性陣は中の様子をうかがい知ることはできませんが、途中で笑い声が聞こえてくるなど、終始和やかな雰囲気だったようです。

研修会のあとは希望者のみで食事会も開き、他の施設の方々とマンモグラフィ以外のことも語り合ったりして、大変盛り上がりました。

募集の方法に多少分かりづらいことがあったとご指摘いただきましたが、概ね好評を得ることができましたので、我々世話人としましてはこれを一つのパッケージとして全国のブロックにお邪魔できればと思っております。施設を利用させていただくことや、地域の技師さんにスタッフとしてお力を少々お借りしなければならないことなどクリアしなければならないハードルは多少ありますが、もし気になる方がおられましたら、世話人までご連絡いただければと思います。

最後になりましたが、施設や設備を快くご提供いただきました京都第二赤十字病院さま、お忙し中にも関わらずお手伝いいただきました京都第二赤十字病院の技師長様やスタッフの方々、そして参加者の皆様に厚くお礼申し上げます。

今後も、乳がんで悲しむ方を一人でも少なくするために、一緒に努力してまいりましょう。

日本赤十字社診療放射線技師会　第 1 回施設代表者会議　開催報告

日本赤十字社診療放射線技師会　副会長
武蔵野赤十字病院
荒井　一正

2019 年 1 月 12 日（土）13 日（日）の 2 日間、日本赤十字社本社の 201 会議室で記念すべき第 1 回の施設代表者会議が安彦会長の開会宣言のもと開催された。73 施設 74 名の参加があり赤十字グループの約 80%の責任者が参集する会議となった。

1 日目

本部長講演

医療事業推進本部の富田本部長に赤十字の理念と使命、災害支援、赤十字グループの強み、経営状況についてわかりやすくご講演していただいた。印象に強く感じたのは、赤十字グループの強み、経営状況の改善であった。日本最大のグループ病院である赤十字病院の経営状況の改善が今求められている。

教育講演

石巻赤十字病院の千葉先生から医療情報部の発足と活動についてのご講演であった。石巻赤十字では、医療情報部が医療情報資源を活用し医療安全や業務改善にうまく活用している実践報告であった。職場管理者が分かりやすくなるように改善項目を数値に整理できているのが印象に残った。

災害講演

北見赤十字病院の相澤先生から北海道胆振地方中東部について報告をいただいた。この地震の大きな特徴は、道内の発電所の機能が停止し道内の離島などを除くほぼ全域約 295 万戸で停電したことである。自家発電で病院機能を維持しないといけないのだが、現実はうまく機能していない点もあり病院の災害対応を考えさせられる内容であった。

事業継続計画（ BCP : Business Continuity Plan ）について、名古屋第二の駒井災害担当理事からご講演いただいた。病院に求められる事業継続計画は各施設で検討されていると思われる。放射線部においても優先して継続・復旧すべき中核事業が何かを決めて院内で職員周知されてそれに備える必要がある。

意見交換会　グループワーク

労務管理、教育、接遇、指導者育成について、9 つグループに分かれて意見交換が行われた。病院機能や経営状況の違いで、施設ごとの対策の違いが明らかになった。今後も赤十字間で情報共有して発展いくことが大切である。

2 日目

本社講演　共同購入

本社の病院支援部の尾崎部長と深谷係長から大型医療機器の共同購入についてご講演いただいた。グループ病院のスケールメリットを活かし、できるだけ安く最適な医療機器を購入できるように診療放射線技師も協力する必要がある。共同購入に関しては課題も多くあり、各施設との協議や調整必要で、保守契約に関しても同様に考える必要がある。

病床規模別意見交換

5 つの病床規模別の班ごとに分かれて課題検討が行われた。私の担当班では、赤十字間の人事交流のテーマとなった。現状でも複数の赤十字病院で交流がすでにあった事実が話題となった。技能のスキルアップや災害支援など目的を明瞭した形での交流は施設間で行われるべきとの意見は多かった。今後、実施展開されることを期待したい。

総括

医師、看護師、事務部は、今まで同様な全国施設代表者会議は行われていた。我々は一歩おくれた状態で今回はじめてスタートをきった。各施設や本社の協力も得て、80%の責任者が集まれたのは、感慨無量である。事前アンケート調査でも各施設の熱い思いが伝わるような意見も多かった。意見交換では、各施設の思いが大きく発散され話が尽きない状態であった。今回の会議を通じて横断的に各施設の交流が芽生える会となれば幸いである。執行部としても成果が実る会議となるように発展を望みたい。今後とも日本赤十字社診療放射線技師会の活動に皆様からのご支援、ご指導いただきます様によろしくお願い申し上げます。